

ヲ容ルヘキ病院並ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ遺骸ヲ處置スヘキ
地消毒法ヲ施行スヘキ場所並ニ停留セラレタル人ノタメ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル
屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前検査ノタメ
之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少クハ二名ヲ派出シテ之ヲ検査スヘシ但右局員ノ内
一名ハ必ス醫師タルヘシ而シテ船長醫師或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問
ニ對シ都テ之ニ應答又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印
シテ差出スヘシ船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但
シ船ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染
シタル恐レアルトキハ其検査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閱シ乗組人及ヒ船客ノ人名録ヲ船内現在ノ人員ト
引合ハストテ得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來港スル船ノ船長ハ明告書及其
他ノ手續ヲ以テ該病有ノ病港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船若クハ其疑
アルモノト直チニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモ
ノ無キ旨ヲ証明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルハ該船ハ直チニ入港スルヲ得ヘ
シ

軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリト
スヘシ而シテ該艦検査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サルハ
并ハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者ナシト雖モ有病ノ港又ハ其
疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直チニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタ

ル般船及ヒ船内ノ人員ハ其ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交
リ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短
縮スルトハ差支ナキヲ認ムル時ハ此限ニアラス
右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルハ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ
上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ
行ヒ或ハ行ハサルヘキト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危険ナ
リト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルヲ得
ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ船
中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從
ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該
艦來ル前七日以内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシトナク又ハ病毒感染ノ
恐ナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺又ハ疑似症ヲ發セシトナキ旨ヲ明告スルハ直
ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルハ檢疫
官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ
間停船セシムヘシ船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ
消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ
消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルハ地方檢疫局ノ
必要ト考斷スル程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシ
ムヘシ但衣最初定メタル時限三日以上アルハ最初定メタル時限ニ達スル迄停

患セシムヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乘組ノ患者未タ愈サレハ其容
容ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ己ニ死シテ遺骸ノ處置未タ済マサルハ其爲メニ
設タル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ充分消毒法ヲ行ヒ
シ後埋葬スヘシ

患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分
ニテモ病毒感染ノ恐レアル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施
スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ
人員ハ其人ノ爲メ特ニ設ケル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ殘リタル人
員ハ船内ニテ消毒法ヲ受ケルカ又ハ交代ノ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受ヘシ
第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫
處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置ス
ヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルヲ得ヘシ
而シ政府ハ右ノ郵便物ヲ陸揚配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設ケヘシ

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受ケルヲ得ヘシ

病院或ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタ
ル方法ニ從フヘシ避病院ニ關係ナキモ醫藥ニ達シタル醫師ハ患者又ハ其代理人ノ
請ニ由テ診察協議スルヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス

第十三條 船中ニ於テ具性虎列刺病苦クハ疑似症ヲ發スルヲナキ時ハ停留セラレタ

ル人ヲ船中ニ停メ置コトヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ目込ニ從ヒ特ニ
陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サ、ルコトアルヘシ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ原因
ナラント思考ノル疑依ノ病徵ヲ發スル者アルトキハ其患者ハ病院ノ室ニ移シ船
ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セムシヘシ但其時間ハ
四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場
合ニ適スル條規ヲ實施スヘシ

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所
ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メ
タル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法
ニ從フヘシ

又該船内中其姓虎列刺若クハ疑似症ヲ發シタルハ該船又ハ其乘込人及ヒ物品ヲ
處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但該船内ヨリ上陸スル者アルハ他船ニ到
着シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其後來着成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ判着後十ニ時間
ヲ過キテ検査ヲナサ、ル時ハ入港スルヲ得ヘシ令シ其遲延天氣情キカ爲メカ又ハ
避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出
ツルカノトキハ此限ニアラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタルトキ檢
査ヲ爲スヘシ

第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官單之ヲ施行シ其船ノ士官及
ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ或ルヘク二十四時間ニ完了
シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ償備スヘシ

第十八條 檢査停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内肩性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船ハ直チニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ

然リトモ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢査官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈スル丈ケノミノ消毒及ヒ檢査ノ方法ヲ反覆施行スヘシ

第十九條 虎列刺病ニ流行スル港内ニ來着スル船舶檢査消毒患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第十九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スコトヲ得ヘシ

其場台ニ方リテ地方檢疫局ニ直チニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニヨリ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用者ニ付與スヘシ

第三十二條 檢査官及ハ停留又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ツ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ住クコトヲ許サズ

第三十三條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠ケハカラザル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨賞スヘシ

第三十四條 此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ムキハ每犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコトヲ得ヘシ

此規則ニ違フキ費用ヲ辨賞セザルモノナルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ但罰金ハ科セザルヘシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船又ハ人)罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

○布告第三十四号 明治十三年七月九日

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺病室扶私赤痢實布瑤利亞發疹室扶私及ヒ痘疹ノ六病ヲ云フ但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 (明治十八年八月勅令第二十四号)醫師ノ染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村長ニ通知スルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ那區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府)廳及警視本署ニ届出ヘシ地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治愈死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムル時ハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ內務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地定泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

第四條 除

第五條 該官廳兵營軍艦監獄及ヒ官立ノ學校病院製作等ニ於テ傳染病者アルトキ其

主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺赤痢發疹室扶私痘疹ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルトキハ內務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難キト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門口ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ但患者治愈死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區畫シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器及ヒ病室室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉河流水道及ヒ厠園芥澤下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルトキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アル片ハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナル片ハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシテ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得此ノ場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二證ヲ兼備スル病ヲ診斷スル片ハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ボサハル程遮斷シ得ヘキモノト目認ルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシハルノ處分ヲ爲スヲ得但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スヲ得

腸室私病

第六十條 腸室私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布塚里亞病

第十八條 實布塚里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹瘰癧私病

第十九條 發疹瘰癧私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹瘰癧私病者若クハ其死屍ヲ藏セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘疹病

第二十一條 痘疹病者アルトキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條 醫師戸長此規則ニ違背シタルトキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏警察ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルトキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス
○第三十一號布告 明治十五年六月廿三日

虎列刺病流行地ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人乗客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スヘカラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ検査官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人ノ乗客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フヘシ 明治十八年九月二日第二十 但検査官ニ於テ必要ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル埠所ニ碇泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ検査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル埠所ニ碇泊セシムヘシ 該病患者ハ之ヲ避病室若クハ其住居若クハ其他検査官ノ適當ト認ムル埠所ニ送致スヘシ其死者(若シ線故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ)ハ地方官所定ノ埠所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人乗客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アルト認ムル積荷ニハ充分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フヘシ 第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ埠所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定スヘシ
○第四十七号布告 明治十五年八月二十六日

明治十二年七月第三十四号布告傳染病預防規則第八條中病名或貼付ノ儀當分ノヲ施行セス
○甲第五十七號 十八年四月二十五日

傳染病豫防規則第十三條ニ依リ船舶検査手續左ノ通知定候條此旨布達候事

船舶検査手續

第一條 虎列刺病流行ニ際シ明治十五年第三十一號公布船舶検査規則ノ執行ナキ埠合ト雖モ病勢ノ是况稠キ船シト認ムルトキハ左ノ手續ニ依リ入港ノ船舶ヲ検査セシムルモノトス

第二條 明治二十三年八月二十八日縣令第五十七號ヲ以テ第二條及第四條中「先命令書ヲ示シ而シテ」ノ十字並第一號書式ヲ削除ス

第三條 検査掛ハ所轄郡長警察署長戸長等ト協議シ埠所ノ埠所ヲ撰ミ埠所ヲ設置スヘシ

第四條 船舶入港スルトキハ検査掛ハ速ニ其船舶ノ海峽風帆日本形ニ到リ其何レノ地方ヨリ來リシヤヲ詢問シ其虎列刺病流行地方ヨリ來ルモノハ船中該病患者若クハ死者ノ有無ヲ検査スヘシ

但虎列刺病流行セサル地方ヨリ來リタルモノモ其患者若クハ死者ノ有無ヲ尋問スヘシ

第五條 虎列刺病流行地方ヨリ來港シタル船舶ニシテ該病患者若クハ死者ナキトキハ第二號書証ヲ附與シ乗客乗組人ノ上陸若クハ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルコトヲ許ルスヘシ

第六條 虎列刺病患者若クハ死者ヲ搭載シタル船舶ハ之ヲ陸地及ヒ他ノ船舶ニ傳染ノ虞ナキト認ムル距離ノ埠所ニ碇泊セシメ該患者ハ馬寮醫院又ハ相當ノ埠所ニ送致シ死屍ハ充分ノ消毒法ヲ施シ官許ノ埠所ニ火葬セシムヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ該病患者若クハ死屍ヲ陸揚シタル後速ニ乗客及乗組人ニ消毒法ヲ行ヒ上陸ヲ許シ次ニ積荷並ニ船内消毒法ヲ施シタル上第三號証書ヲ附與シ該船ノ他港ニ進航シ陸揚地又ハ他船ト交シ及積荷ヲ陸揚スルヲ許スヘシ

第八條 小蒸氣船 暫時ノ渡海ニ及日本形五拾石未満ノ小船ハ凡テ前各條ニ準シ檢査ノ上第四號以下ノ証書ヲ附與スルモノトス

第九條 船内及積荷乗客乗組人等ノ消毒ニ係ル費用ハ一功其船長ヨリ支辨セシメ患者若クハ死者ニ屬スル費用ハ其本人若クハ家族ヨリ辨償セシムヘシ

第十條 檢査掛ハ日々船舶ノ出入及病者死者ノ有無等處分ノ顛末ヲ詳記シ毎週間衛生課ニ報告スヘシ

第一號書式ハ 明治廿三年八月二十八日縣令第五十七號ヲ以テ該書式ヲ刪除ス

第二號書式ハ (用紙適宜)

何縣下何國何郡何町船籍
漁船風帆船又ハ日本形何丸

宮崎縣何港船舶檢査掛
官等 氏 名 印

虎列刺病患者及ヒ其死屍ナキヲ証明ス

第三號書式ハ (用紙適宜)

何縣下何國何郡何町船籍
漁船風帆船又ハ日本形何丸

宮崎縣何港船舶檢査掛
官等 氏 名 印

虎列刺病患者幾人アリ消毒法施行濟ニ付乗客乗組人ノ上陸又ハ本船ノ他港ニ進航若クハ陸地並ニ他船トノ交通及積荷ノ陸揚ヲ許ス

宮崎縣何港船舶檢査掛

年月日

官等 氏 名 印

第四號証書式 (用紙適宜)

第幾號 虎列刺病患者死者ナシ

小蒸氣船又ハ日本形何丸

年月日

宮崎縣何港船舶檢査掛
官等 氏 名 印

第五號証書式 (用紙適宜)

第幾號 消毒法施行濟

小蒸氣船又ハ日本形何丸

年月日

宮崎縣何港船舶檢査掛
官等 氏 名 印

○訓第八六九號 (十九年) 內務大臣ヨリ

本年虎列刺病ノ發生スルヤ又地方官ハ海防檢疫ノ法ヲ嚴ニシ消毒撲滅ノ術ヲ盡シ拮据勉勵幾ント遺策ナカリシモ該病毒ハ全國ニ瀰漫シ今日ニ至ルマテ既ニ患者拾五萬餘人死者拾萬餘人ノ多キニ升レリ蓋シ人事交通ノ頻繁ナル全ク病毒ノ竄入ヲ拒絶スルハ極メテ難ク既ニ其侵入スルニ及テハ當初ニ之ヲ撲滅スルヲ力トシ若シ撲滅シ能ハサレハ患者ノ數ヲ減シテ其禍害ヲ輕小ニ止ムルヲ以テ防禦ノ目的トナサ、ルヲ得スト雖モ該病毒ノ性質タル傳ヘテ汚濁不潔ノ地ニ至レハ其蕃殖ヲ盛ニシ其後遺ヲ遺フスルハ疑ナキ事實ナルカ故ニ未發ノ時ニ於テ土地ヲ清潔ナラシムルハ豫防方中最

モ緊要ナリトス然レモ從前ノ如キ系統ナキ下水溝又ハ其構造極メテ粗ナル厠園芥溜ニ對シ一分ノ効績ヲ收メ難キニ付テ病毒發伏シテ其未ダ萌動セサルニ先ダチ其管下市街ナシタル地及市街ナサスト雖モ行ヒ得ヘキト認ムル場所ハ便宜相當ノ方法ヲ設ケテ先ツ左ノ三項ノ改修ニ着手シ以テ清潔除害法ノ端緒ヲ啓キ豫防法ノ基礎ヲ固クシ前年ノ覆轍ヲ踐マサル様注意セラルヘシ

一 汚水疎通方ノ一

一 屎尿排除方ノ一

一 塵芥掃除方ノ一

右訓令ス

○內務省 十九年十二月三日

○務無號 (內務衛生局長ヨリ知事ヘ)

今般訓第八六九號ヲ以テ虎列刺病終熄後施行ノ條項訓令相成候ニ付テハ御參考ノ爲メ汚水疏通厠園芥溜改造方法ノ概略ヲ左ニ記載シ及御回候條斟酌施行相成尙疏掃掃除ノ方法便宜御取設之上御通報相成度此段申進候也

追テ別紙下水溝厠園芥溜構造方之義ハ單ニ其方法ノ一端ヲ記載セルモノニ付詳細ニ付テハ該專門家ニ於テ取調候様致度此段申添候也

一 下水溝

第一方 烟瓦ヲ以テ印圓形ノ暗渠ヲ疊ミ吐口ニ至ル迄漸次ニ勾配ヲ付シ之ヲ無害ノ地若クハ河水ニ通シ此暗渠ヲ本幹トシ之ニ陶製又ハ烟瓦石材ヲ以テ構造シタル支管ヲ接續シ一切ノ汚水雨水ヲ排除スルモノ

第二方 溝底周圍ハ切石木板漆喰叩キ又ハ其他ノ材料ヲ以テ築造シ成ルヘク覆蓋ヲ設ケ汚水雨水ヲ無害ノ地若クハ海ニ排除スルモノ
上ノ二方ヲ施スル能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ス如何ナル構造ニ論ナ

ク一切ノ汚水雨水ヲ阻滯壅塞セシメスシテ之ヲ無害ノ地若クハ河海ニ排除スルノ方法ヲ設ケルモ妨ナシ

一 厠園

第一方 厠園ハ其質緻密ナル木材等ヲ以テ移動スヘキ厠桶ヲ作り之ヲ厠窩ニ代用シ屎尿ノ滿ツルニ先ダチ同様ナル他ノ受器ト交代シテ之ヲ送去スルモノ

第二方 厠窩ハ瓷衣ヲ有スル陶器ヲ用テ之ヲ地中ニ埋メ其周圍ノ表面ハ漆喰叩キ等ヲ以テ漏斗狀ニ築造シテ厠窩ニ遠スルモノ
上ノ二方ヲ施スル能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ス如何ナル築造ニ論ナク厠窩及其周圍ノ屎尿ヲシテ地中ニ滲透セシメサル構造ニ爲スモ妨ナシ

一 芥溜

第一方 芥溜ハ蓋ヲ有シ芥塵ヲ掃除スルニ便ナル箱苦クハ直ニ運搬スルヲ得ヘキ受器ヲ設置スルモノ
上ノ一方ヲ施スル能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ス如何ナル構造ニ論ナク

汚汁ヲシテ地中ニ滲透セシメサル設置ヲ爲スモ妨ナシ
○本規第二七號 二十一年十一月十一日 (警察署) 署
六種傳染病有之臨檢上特ニ醫師ノ雇入ヲ必要トスル場合並ニ醫師雇入ノ儀ハ左ノ通取扱可致尤モ費途ノ儀ハ地方稅傳染病豫防費ヨリ支辨候條其時々第二部衛生課ヘ請求スヘシ

右之通達ス

一 醫師雇入ハ左ノ場合ニ要スルモノトス

六種傳染病ノ疑アル患者アリテ甲乙醫師ノ診斷ヲ異ニスル片

六種傳染病ノ疑ヒアル患者ヲ診察セシムル片

一醫師ノ手當ハ診察一回ニ付金五拾錢以内（虎列刺病患者死者ニ接スル片ハ金壹圓以内）ヲ以テ適宜支給スヘシ但片道一里以外ニ往診スル片ハ一里ニ付金五錢ヲ増給スルモノトス

○本縣訓令第二百六十四號 明治二十三年十一月十一日（郡役所 警察署）
縣訓令第二百六十四號 明治二十三年九月十一日（警察分署 町村役）
明治二十三年九月內務省令乙第三十六號達傳染病豫防心得書及明治二十年九月訓令第百六十七號虎列刺病豫防消毒心得書ヲ改正シ更ニ左ノ傳染病豫防心得書ヲ其筋ヨリ指示サレ候ニ付自今豫防ノ方法ハ之レニ準據シテ施行スヘシ尤該心得書ハ主トシテ市町村ニ於テ遵行スヘキ方法ヲ示サレタルモノナルニ付郡役所警察署警察分署ニ於テ施行スヘキ要件ハ從前ノ例ヲ參酌シ適宜措置スヘシ但明治二十三年七月訓令第二百八號全年八月訓令第二百十三號ハ消滅ト心得ヘシ
傳染病豫防心得書

傳染病ノ流行ハ一人一家ヨリ町村郡市ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ災害トナルモノニシテ之レヲ豫防スルニハ一人一家ノ始メニ於テズルニ非サレハ其全功ヲ收ムルヲ能ハス今ヤ郡市町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒ヲ一人一家ニ撲滅シテ全聚落ノ生命財產ヲ安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其市町村ニ傳染病者發生スルトアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ豫防上ノ要件ヲ病家ニ示諭シ病家ハ醫師及ヒ當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ十分ノ注意ヲ以テ豫防消毒ノ處置ニ疎虞遺漏ナカラント務ムヘシ而シテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメントスルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初メ些細ノ注意ヲ缺キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水茶溜等ニ投棄シ又ハ病室感染ノ疑アル雇人稼人等ヲ猥リニ歸郷セシムル等ニ因リ病源遠近ニ傳播シ復タ防遏スヘカラサルノ勢ヲナス

一其例證一ニシテ足ラス到底衛生組合ノ方ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各人ノ注意戒慎ヲ喚起スルニ非サレハ市町村共同ノ方法モ其全功ヲ收ムルヲ能ハサルナリ以上ハ豫防實施上市町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要領ニシテ若シ其流行數市町村ニ及フカ若クハ病性ノ急劇ナル虎列刺ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ府縣ノ力ヲ以テ豫防ノ方法ヲ務メサルヘカラス

此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ擧ケタルモノナレトモ總テ傳染病ハ地方病トナリテ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概テ數年若クハ數十年ヲ隔テ、流行スルカ故ニ其流行セサル時ニハ永ク本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思フ爲スト雖トモ傳染病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上地下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設ケル等万全根治ノ策ヲ怠ラズ用水ヲ純潔ニシ住地ヲ乾淨ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免カル、能ハス故ニ就中都會ノ地ニ於テ鏡意上地下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成スヲ要ス

總則

第一條 市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法、衛生法其他傳染病豫防ノ事ハ就キ規約ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス

第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成利ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書各病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス

第三條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室器具被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スルト相當ノ處分ヲ怠ラサランコトヲ要ス
前項醫師ノ通知ニ接セサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ

警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其旨込ニ從ヒ預防消毒ノ處置ヲ爲スコト前
項ノ如クナランコトヲ要ス

第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視
シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテ人夫ヲシテ病者ニ汚染セルモ
ノヲ取り集メシメ消毒法ヲ施スヲ要ス

第五條 傳染病者治愈又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ
身體若クハ死屍看病人患者ノ居室其他病者ニ汚染セル衣服器具等ニ消毒法ヲ行フ
ヲ要ス

第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者
運搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要ス

第七條 郡市北海道廳ニ長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラ
シメ又有病地ノ病況ト豫防法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

虎列刺

虎列刺ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘酷至
ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主
トシテ患者ノ吐瀉物中ニ舍ルカ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚
染セルモノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒ノ未ダ散
蔓セサル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

二患者自宅ニ於テ消毒看病人届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病
院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムコト

三患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ長クスルコト

四患者用ノ便器ニハ蓋蓋ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰
乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒
藥ヲ澆キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ燒却スルコト

五患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳五十分一ノ生石灰若ク
ハ五分一ノ石炭酸水ヲ澆キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記
ノ消毒藥ヲ澆クコト

六患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器、其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物
ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法
ヲ行フコト

七患者ノ身體吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者
ノ居室ニ蚊帳ヲ帳ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト

八看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及ヒ之ニ汚染
セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニ
テ洗フコト

九患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト

十患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサ
ルコト

第二條 虎列刺發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス
但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スル
ヲ要ス

一患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サハルコト

二病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用ルコト

三芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト

四飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ用フルコト

五總テ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且其下利患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌クコト

第三條 虎列刺流行ノ際下利若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ

第四條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹隘ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト

三交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト

四交通遮斷中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ區域内ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト

五患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷區域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生スルトキハ遮斷ヲ解除スルコト

六遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト

第五條 交通遮斷區域内若クハ曾テ虎列刺ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據リテ消毒の清潔法ヲ施行スルコト

一下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムヘシ

二芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若燒却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周子ク撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ行スルコト

一家什ヲ出シ塵ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光空氣ニ曝スルコト

二床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キキタル、砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三衣服器具ハ殊ニ能ク日光空氣ニ曝シ其汚レタモノハ洗濯スルコト

第六條 虎列刺流行ノ虞アルトキハ其市町村又ハ郡若クハ府縣ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師郡市町村吏員等及警察官吏衛生官市等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムルヲ要ス

腸室扶私

腸室扶私ハ其病毒專シ患者ノ漏下物中ニ含リ申列刺病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖瀰漫シ廣ク流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ病法ニ至テモ虎列刺ト略ホ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルコトナシ明治十二年傳染病預防規則發布以來十年間ノ患者三拾壹萬餘死亡七萬餘ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキ以テ公眾ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列刺ヨリ甚キモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防セシムルニ怠ルナカランヲ要ス

第一條 腸室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
- 二患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受シムルコト
- 三患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト
- 五患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ人レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ澆キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六患者ノ上リタル便所ニハ小ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳五十分一ノ生石灰若

クハ五分一ノ石炭酸水ヲ澆キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ澆クコト

七患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

八患者ノ身體糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト

九看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ具承水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

十患者ト居テ同フスルモノハノ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト

第二條 腸室扶私發生シタル片ハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト

四飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ之ヲ用フルコト

五總テ熱性病ニ罹リ又ハ下痢ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 腸室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ニ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

赤痢

赤痢ハ其病源ヲ專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病性大ニ腸室扶私ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ略モ腸室扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ流行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖モ本病者ト同様ニ取扱フヲ要ス

抑本病ハ腸室扶私ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明治十三年以來十年間ノ患者數殆ト二十萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キ八年一年ニ流行ノ勢ヲナシ病源漸次ニ全國ニ浸淫セントス故ニ本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔チカメ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ盡シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ腸室扶私ニ於ケルカ如クナランヲ要ス

實布埜里亞

實布埜里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀最險惡ナリ抑モ本病ノ病源ハ咽喉喉頭ノ如キ部分ニ含リテ患者ノ痰唾、鼻汁其他患者ノ使用セル衣服玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患

者ト健康者殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校、幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆ノアル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條 實布埜里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防ヲ守ルヲ要ス

一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校幼稚園ニ報告スルコト

二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶テ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト

三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ數々加酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ合漱シ且ツ患者ノ居室ヲ出ルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フヘコト

五 患者ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片布片等ハ蓋覆ヲ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ台漱シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ル、コト

六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ澆キ所定ノ便所ニ移スコト

七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

八 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、食飲器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

九患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト

第二條 實布埜里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト

二兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト

三兒童感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受シムルコト

第三條 實布埜里亞(格魯布)患者頗々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一醫師ヲシテ小學校幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト

二小學校幼稚園ノ教員ト協働シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト

一患者アル家兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家へ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ禁スルコト

二兒童中咳嗽或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト

三生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フコト

四出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト

五唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト

六教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戶ヲ開放シテ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト

七教場内處々ニ適宜ノ瓶、蓋等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰、唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校、幼稚園ヲ閉鎖スルヲ要ス

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニテ備障ノ最モ汎疾ナルモノナリ其一タヒ流行ノ米ヲ呈ハヤ忽チ其傳染シ殊ニ貧民部或ハ群衆雜居ノ場所ニ侵入スルトキハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不旨ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛劇トナリ全部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ預防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トシ而シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ群衆院又ハ療養所ノ開設、貧民救濟法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

第一條 發疹室扶私又ハ之ニ似セシ熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

二患者自宅ニ於テ消毒ヲ病室ニ限シ難キモノハ由安若クハ家人ノ切ニ依リテハ群衆院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

三患者ノ居 八常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ怠ケスルコト

四看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇玉水ニテ手ヲ洗ヒ而シテ淨水ニテ洗フコト

五便器ニハ石炭酸水ヲ入レ替キ患者ノ便尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ澆キ所定ノ便所ニ移スコト

六患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食、其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ
及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ解キ消毒法ヲ行フコト

第二條 發疹室及私衛生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ預防法ヲ守ルル
要ス但衛生組合ノ設アル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其預防法ヲ各家ニ告知ス
ルヲ要ス

一患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト

三身體衣服ヲ清潔ニシ溫度ノ勞力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコ
ト

四總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 發疹室 扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ預防法ヲ施行ス
ルヲ要ス

一醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

二患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ
方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘瘡

痘瘡ノ病源ハ痘漿痘痂中ニ合レルハ勿論患者ノ身體ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之
ヲ含ミ、染力ノ強烈ナル遙ニ他病ノ上ニ出ツ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病源ヲ傳ヘテ遂
ニ無數ノ人衆ヲ侵セルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全
ノ豫防法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘント雖モ再三之ヲ反覆セサレハ其
効全カラサルヲ以テ苟クモ本病發生スルトキハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ

者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ十分ニ病源ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來
ノ經驗ニ據ルニ保俾、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘毒ニ汚染セラル、モ其
手、足衣服等二十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病源ヲ傳播セシムルノ例甚タ多シ深
ク戒ムヘキコトトス

第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ預防法ヲ守ルヲ要ス

一患者ノ外未痘見ハ勿論再三種痘ヲ受レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種
痘ヲ爲スコト

二患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學
校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校
、幼稚園ニ報告スルコト

三患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

四患者自宅ニ於テ消毒看病人難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病
院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

五患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ長クスルコト

六患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ標メ之ニ石炭酸水
ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片又ハ落屑及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此壺
中ニ入ル、コト但器中ノ汚物ハ藁、鉋屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ澆キテ之ヲ燒
却スルコト

七看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ
淨水ニテ洗フコト

八便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ澆キ所定ノ便
所ニ移スコト

九患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
十患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
十一患者ノ身體及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ聚マザル標之ヲ防グコト
十二患者ノ痘瘡落痂スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカカラス
第二條 痘瘡發生シタル井ハ病家近傍ノ各家共同ノ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス一患者アル家ト成ルノ交遊ヲ爲サ、ルコト
二未痘兒ハ勿論再三種ヲ終レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルヲ
三痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス
○消毒方
傳染病毒ハ其本體己ニ詳ナルアリ未タ詳ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蕃殖機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レズ此有機體タル各病孰レ其性狀ヲ異ニシ傳染ノ景况一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ舍リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹瘡扶私病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室內ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體居室內ノ空氣ヨリ又ハ痘痂、痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スル者ハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、濕熱、藥劑等總テ消

毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用、用法ヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカランコトヲ要ス

第一 火力
消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及ヒ効用

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體及ヒ病毒ニ汚染スルコト甚クシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 濕熱附煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱瀛ニ逢トキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱瀛消毒器中ニ入レテ熱瀛ノ内部ニ透徹シ易キ標適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱汽ヲ周子ク繞シテ消毒スヘシ

熱瀛消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱瀛ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ簡蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一注ヲ舉クレハ接合堅密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿チテ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿チテ隙計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚々簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ効全カラストス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍)

結晶石炭酸水五分
水 九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ類ニシテル場合ニノミ使用スヘシ本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ搦造精緻ノ家屋貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ランコトヲ要ス

一本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ此ニ洗スヘシ

二本品ヲ以テ器ヲ具室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ

三本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スシ本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、餘々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水(千倍) 昇汞水一分 鹽酸五分
水 九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色臭ナルカ爲メ危險ヲ指シキノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カン爲メ本品百硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ

一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若クハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲 乙兩種ノ消毒藥ニハ劇トシ藥なり飲むヘからずト票記スヘシ
丙 生石灰
石灰乳(十倍) 生石灰一分
水 九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺、腸室扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐瀉物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ長トス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ澆ケハ熱ヲ發シ崩壊スルモノヲ用ユヘシ又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス
丁 格魯兒石灰水(井倍) 格魯兒石灰五分
水 九十五分
格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊 硫酸若クハ粗製硫酸 同量ノ水ニ溶

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池、水下等ノ消毒ニ用フルヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ本品ヲ糞池ニ入シテ流スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾分ヲ他ニ分子テ各別ニ消毒スルヲ可トシ又本品ハ漆喰被金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周邊漆喰被ナルトキハ消毒ノ際特ニ注意シ又金屬製品ニ入ルヘカラス
本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ加スヘカラス

第一 患者

傳染病者治愈シタル時ハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ斂ムヘシ但成ルヘク火葬スルヲ良トス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病者ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ豫メ爪ヲ切り其間ニ汚垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周子ク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ濯クヘシ

第五 便所、芥溜、下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸壁扶私、赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニハ少ナクモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水此用量ハ最低度ヲ示シタル

者ナレハ多キニ過クテ濯キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周子ク右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池、肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ナシ
虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ濯キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘り取りテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ヘクハ消却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ
虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ消却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ
虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ濯テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ濯テ疏通セシムヘシ

第六 衣服、器具、敷物等

一 傳染病者ノ着用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用器、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類
一看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ着用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等

一 患者ノ居室内ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ
右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

- (一) 蒸氣消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱湯ヲ三十分乃至一時間以上周子ク通セシム
- (二) 煮沸熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス

(三) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中二十時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

(四) 昇汞水浸漬 昇汞水中二十時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

(一) 石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス

(二) 乾布拭淨 屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭淨シ其乾布ハ速ニ燒却ス

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス

木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、席、絨氈、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ例之ハ患者ノ吐瀉物、瀉下物ノ浸潤セルモノ虎列刺、發疹室扶私、痘瘡患者ノ病室内ニ敷キアリタルモノ、類ヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚ケ此疊敷毒ハ前項ニ據ルヘシ 室内各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ床及ヒ床下ニ吐瀉物漏セルトキハ石灰乳若クハ林魯兒石灰水ヲ十分ニ撒注スヘシ 掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ叮嚀ニ拭淨ス右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄家人ノ起居ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

第八 汽車

虎列刺患者アリタル汽車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭酸、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ毒消法ヲ者フニ先チ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔タル所ニ廻航セシムルヲ要ス

一患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ周子ク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

一患者アリタル室ノ外ト雖モ病者汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ

虎列刺ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ

一患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ

一吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ溢キ船底ニ滯留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

一船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗滌スヘシ

○本警訓第三五號 明治二十三年(警察署) 八月二十三日(分署)

船檢査ニ際シ虎列刺患者アルカ又ハ吐瀉患者アリシ時ハ相當措置スヘキハ勿論

寄港スヘキ地(縣ノ内外ヲ問ハス)ノ警察署若シクハ分署ヘ電信ヲ以テ通報シ取締ニ注意セラルヘシ

○本署發第三三三號 明治二十三年八月二十八日(警部長ヨリ各署ヘ)
傳染病患者又ハ死者ニ接セントスル場合ハ是マテ着服等ニ稀薄石炭酸ヲ撒布シ出張致來候處右ハ實際其効無之ニ付自今之ニ使用スル霧吹器等ノ新調ハ全廢シ而シテ患者若クハ死者ニ接スルカ又ハ排泄物運搬ニ從事シタル後ニ於テハ從前ノ通身体ノ沐浴衣服ノ洗淨等充分ノ消毒ヲ行ヒ候様可被致但消毒等ニ從事スル場合ハ便宜豫備服又ハ浴衣ヲ着用シ苦シカラス

○本署發第十四號 二十三年二月廿一日
目下歐米諸國ニ蔓延流行セル流行性感胃本邦ニ浸入ノ兆有之趣ニ付此際醫師ニ於テ該症患者ヲ診察シタルトキハ明治廿一年八月縣令第五十二號開業醫師取締規則第九條ノ手續ヲナスヘシ

○本署發第二四號 二十三年五月二十七日(警署全分署)
本年ハ春來晴雨寒暖不順ノ折柄去ル二月縣令第十四號ヲ以テ目下歐米諸國ニ於テ蔓延流行スル流行性感胃本邦ニ浸入ノ兆有之旨令達有之既ニ東京及京坂地方ニ於テ頻ニ流行シ今又廳下官廳ニ於テ該病ニ感染スルモノ往々有之其病症及豫防方法等ニ至テハ官報ヨリ披抄シテ警察公報第十六號末尾ニ掲載有之候條宜シク注意ヲ加ヘ隔離豫防法等ヲ嚴行シ速ニ撲滅スヘキ様取計ハルヘシ

○本署發第二四二〇號 明治二十三年八月三十日
警部長ヨリ高鍋署長ヘ
本月二十三日高收第三一八九號ヲ以テ船舶検査ニ執行ノ件ニ付伺出ノ趣駐在巡查ヲシテ便宜検査セシメラルヘシ但命令書ノ義ハ本年縣令第五十七號ヲ以テ廢止セラル高收第三一八九號 明治二十三年八月廿三日 高鍋署長ヨリ警部長ヘ

船舶検査執行ノ件ニ付伺

本縣知事閣下ハ本月二十日達第二九六號ヲ以テ明治十八年(四月)甲第五十七號布達船舶検査手續ニヨリ検査執行スヘキ旨命達有之ニ付取敢ス部下美々津港ニ於テハ全所駐在巡查ヲシテ仮リニ検査致サセ居候處右甲第五十七號手續ニ依ルトキハ知事閣下ハ命令書ヲ以テ検査ヲ定メテレ埠員ハ第一號式ヨリ第四號式ニ至ル証書附冊等ノ手續ヲナサハルヘカラス然ルニ這般ノ命達ニハ唯々單ニ高鍋警察署ヘ虎列刺病流行ノ地ヲ發シ及ヒ全地方ヲ經テ來ル船舶ヲ検査スヘシト有之ノミ若シ之ヲ以テ検査掛ヲ定メラレタル命令書ト看做ストキハ當然小官又ハ次席警部補ノ中一名検査掛ト相成検査執行可然義ニ候哉何分ノ御指揮相成度候也

○布告第三十四號 十八年十一月九日

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラズ掛官吏ノ指定シタル期限内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷事書故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證受領シ戸長役場ニ届出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未満ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條項ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

等十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○本縣甲第廿六號 十九年四月十三日

種痘細則

第一條 戸長役場ヨリ種痘施行ハ種痘檢診時日ノ通告ヲ受ケタル者ハ遅延ナク出場シテ掛員又ハ醫師ノ指示ニ從フヘシ

第二條 種痘又ハ檢診ヲ受ケヘキ者病氣或ハ不得止事故アリテ出場シ能ハサルハ時刻前戸長役場若クハ種痘場又ハ檢診場へ届出ヘシ

第三條 前條ノ届ナシタル者病氣全快又ハ事故解決タルトキハ直ニ種痘ヲ爲シ若クハ檢診ヲ受ケヘシ

第四條 醫師種痘ヲ行ヒ若クハ天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ書式其二該當ノ証書ヲ付與スヘシ

第五條 醫師ヨリ前條ノ証書ヲ受領シタル者ハ三日以内ニ所轄戸長役場へ差出し戸長ノ檢印ヲ受ケタル上保存シテ臨時點檢ノ用ニ供フヘシ

第六條 戸長役場ヨリ施行スル種痘ノ期日ニ拘ハラス自醫師ニ就キ接種ヲ受クルハ妨ケナシト雖モ此場合ニ於テハ其届書ニ醫師ヨリ受領シタル證書ヲ添ヘ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 種痘ヲ施行シタル醫師ハ其姓名並初種再三種ノ別及ヒ感否等詳細帳簿ニ記載スヘシ

第八條 醫師種痘スルルハ牛痘苗ハ必ス初種兒ノ健全ナルモノニ接種シ以テ痘苗ヲ作ルノ料トナスヘシ

第九條 種痘醫ノ手當及ヒ種痘ニ屬スル費用ハ凡テ町村費タルヘシ

一其式書

(宜適紙用)

種痘証

宮崎縣何郡何町何番戸(又ハ寄留)

某長男(又ハ何々)

何某

何年何ヶ月

右何類 初種 再種 三種 善感(又ハ不)

左何類 不善感ハ左右 類數ヲ記サス

年月日 何郡何町何番戸醫師 何某 印

二其式書

天然痘證

肩前書ニ同シ

何某

何年何ヶ月

右天然痘濟

肩書前ニ同シ

年月日 何某 印

○第二章 獸類傳染病

○農商務省令第十一號 明治十九年九月十五日
獸類傳染病豫防規則 左之通制定シ 明治二十年一月一日ヨリ施行ス
但明治九年二月内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢正ス

獸類傳染病豫防規則

- 第一條 此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ
 - 一 牛疫
 - 二 炭疽熱
 - 三 鼻疽及皮疽
 - 四 傳染性胸能膜肺炎
 - 五 傳染性鷄口瘡
 - 六 羊痘
- 第二條 獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルキハ所有者又ハ管理者ハ其患畜ト患畜トヲ隔離シ獸醫ヲシテ患者及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ
- 第三條 獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ
- 第四條 獸醫牛疫ト診斷シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ
- 第五條 第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ左ノ手當金ヲ下付スヘシ

評價金二十五圓マテ	手當金評價十分ノ四
評價金五十圓マテ	同 十分ノ三
評價金百圓マテ	同 十分ノ二
評價金二百五十圓マテ	同 十分ノ一
評價金五百圓マテ	同 十分ノ一
評價金千圓マテ	同 二十五分ノ一

第四編 第四 獸類傳染病

- 第六條 獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ
 - 第七條 第三條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ニ於テハ其旨ヲ患畜所在ノ近傍ヘ榜示スヘシ
 - 第八條 傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルトキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ
 - 第九條 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル飼料糞草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所リ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋没スヘシ
 - 第十條 傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患畜ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フヘシ
 - 第十一條 道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラサレハ轉移スルヲ許サス
 - 第十二條 傳染病ノ流行ニ際シ警察總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ關スル營業ヲ停スル得
- 但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 第三條第六條第八條ノ届出ヲ受ケタル局長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳警視廳北海道廳ニ届出ヘシ

第十四條 警視廳監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ届出ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示シ且近接ノ地方廳ニ報告スベシ

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示スヘシ

第十五條 警視廳監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ届出ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 警視廳監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ届出ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ農商務大臣ノ允許ヲ得テ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得

第十七條 牛疫蔓延ノ際ニ限り其患畜ニ接近シタルトキハ假令健康ノモノタリトモ警視廳監北海道廳長官府縣知事ニ於テ農商務大臣ノ允許ヲ經タル後之ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ金額ヲ下付スヘシ

第十八條 牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視廳監北海道廳長官府縣知事ハ農商務大臣ノ允許ヲ得タル後其患畜ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ

第十九條 此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

○農商務省告示第十八號 十九年九月十五日

獸類傳染病豫防心得

第一項 獸類ノ狀態管理養護ニ注意スルコト

第二項 獸類ノ身體畜舎器具等ヲ清潔ニスルコト

第三項 畜舎内ニ新鮮ノ大氣ヲ流通セシムルコト

第四項 畜舎内ノ温度ヲ調和スルコト

第五項 飲水ノ清淨ヲ要スルコト

第六項 適度ノ運動ヲ爲サシムルコト

第七項 健畜ト傳染病畜トヲ隔離スルコト

第八項 傳染病流行地方ニ於テハ病性ニ從ヒテ獸類ヲ區別シ成ルヘク獸類ノ出入往來ヲ爲サシメサルコト

第九項 傳染病畜所在ノ入口ニハ其病名ヲ標示スルコト

第十項 傳染病流行地近傍ノ牧場ニ放牧セサルコト

第十一項 牧場ニ於テ傳染病發生シタルトキハ直ニ其患畜ヲ適當ノ場所ニ圍ヒ置キ他ノ健畜ヲシテ之ニ接近セシメス又ハ放牧セサルコト

第十二項 傳染病流行ノ地方ニ於テハ獸類ノ市場屠場等ニ消毒法ヲ施スコト

第十三項 所有者又ハ管理者ヲ問ハス創傷潰瘍等アルモノハ患者ニ觸接セサルコト

第十四項 傳染病流行ニ際シテ獸類發病シタルトキハ其何病タルヲ問ハス獸醫ヲシテ速ニ之ヲ診察セシムルコト

第十五項 傳染病流行ノ際ハ一層排水法ヲ怠ラサルコト

第十六項 牛疫若クハ傳染性胸膜炎ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體草糞

尿及其他ノ廢棄物等ヲ運搬スルニハ牛ヲ用フヘカラサルコト

第十七項 獸類炭疽熱ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體草糞尿其他ノ廢棄物等ヲ運搬スルニハ牛馬ヲ用フヘカラサルコト

第十八項 鼻疽及皮疽流行ノ際ハ馬匹ヲ交尾セシメント欲セハ必ス獸醫ノ診察ヲ受クヘキコト

第十九項 鼻疽及皮疽ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體草糞尿及其他ノ廢棄物ヲ運搬スルニハ馬ヲ用フヘカラサルコト

第二十項 傳染病畜アル舍内及牧場ニ於テハ獸醫又ハ看護者ノ外ハ濫患畜ニ接近セシメサルコト

第二十一項 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル獸類ノ死體排泄物ハ勿論之ニ使用シタル飼料草等ハ悉ク燒棄ツルコト

第二十二項 患畜ヲ撲殺場又ハ埋瘞場ニ移スノ途中他畜ノ近接ヲ避ケ且血液其他ノ排泄物ヲ遺脱セサルコト

第二十三項 糞尿ハ勿論其他汚穢物ハ總テ傳染病ノ媒介トナルモノナレハ務メテ之ヲ除去スルコト

第二十四項 傳染病流行地方ノ犬猫鷄等ハ飼主ニ於テ放飼セサルコト

第二十五項 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル獸類ノ死體排泄物ハ勿論其他該畜ノ爲メニ使用シタル畜舍欄庭貨車糞壺瀝器首等ニハ消毒法ヲ施スコト

第二十六項 傳染病畜ノ看護者ハ勿論其患畜ニ觸レタルモノハ消毒法ヲ施スコト

第二十七項 患畜舍ハ熱湯或ハ灰汁ヲ以テ洗ヒ石灰水或ハ粗製石炭酸水ヲ澱キ窓戶ヲ密閉シテ亞硫酸瓦斯ノ蒸氣法ヲ施シ次テ窓戶ヲ開放シ大氣ヲ通シ日光ニ曝スコト

第二十八項 患畜ノ糞ハ燒棄テ或ハ消毒藥ヲ澱キテ深ク地中ニ埋メ尿糞ニハ石灰ヲ撒布スルコト

第二十九項 患畜ニ觸レタル飼槽飼架被覆獸類ニ用ヒタルモノ及其他ノ器具ハ燒棄ツルヲ良トス但鐵製ノ器具ハ火熱ヲ加ヘタル後用フルモ妨ナキコト

第三十項 患畜若クハ死體ヲ取扱ヒ又消毒法施行ニ從事セシ者ニシテ止ムコトヲ得ス他行スヘキ場合ニ於テハ其身ニ消毒法ヲ施シタル後ニアラサレハ他行セサルコト

第三十一項 患畜若クハ死體ヲ取扱ヒ又ハ消毒法施行ニ從事セシ者ノ衣服ハ成ルヘク燒棄ツルヲ良トス否サレハ其衣服石鹼水ニテ洗ヒ亞硫酸瓦斯ノ蒸氣法ヲ施シ十二時乃至二十時間消毒シテ充分大氣ニ曝スコト

第三十二項 患畜或ハ其排泄物等ニ解レタル者ノ草鞋木履等ハ燒棄テ靴ハ石灰水ニテ洗ヒ之ニ獸脂ヲ塗リテ大氣ニ曝スコト

第三十三項 消毒藥ハ其類多シト雖左ニ普通ノモノヲ舉グ

第一 濃厚石炭酸水(二十五倍乃至五十倍)

第二 稀薄石炭酸水(六十倍乃至百倍)

第三 石灰水

第四 石灰

第五 亞硫酸瓦斯(硫黃ヲ燒キ發散シタル瓦斯)

第三十四項 獸類ノ傳染病名及其症候ハ左ノ如シ

第一 牛疫

學語

ペスチス

ボウイナ

英國語

カットル

ブレーク

佛國語

カットル

ブレイク

獨國語

ペスト

ボウイナ

獨國語

リンデル

ペスト

牛疫ハ牛族特異ノ熱性傳染病ニシテ體中各部ノ粘膜ヲ侵シ就中消化器粘膜ニ特異ノ炎症ヲ呈シ牛族ヨリ他ノ反芻獸ニ傳染スルモノナリ此病ハ害毒ノ慘劇ナル傳播ノ迅速ナル斃死ノ夥多ナル獸類傳染病中最モ危險ナリトス
牛ノ此病ニ罹ルトキハ熱ヲ催スヲ以テ初起ノ症候トス即體温少ク増昇シ秘乳食慾共ニ減少シ倦怠シテ頭ヲ垂レ一二日ヲ經レハ加答兒ノ症候ヲ呈シ各部ノ粘膜特ニ紅ヲ潮シ反唾休止シ眼鼻口ヨリ液ヲ漏泄シ濕咳ヲ發シ漸々呼吸ノ數ヲ増シ三日乃至四日ヲ經過スレハ赤痢様ノ下痢ヲ起ス口腫及陰腔ノ粘膜腫起シテ其面ニ粟粒大乃至豌豆大ノ黯白色ノ小點ヲ發シ乾酪様ノ滲出物ヲ覆フ此乾酪様ノ質ハ容易ニ剝脱シテ爛斑ヲ現シ其他結膜ニ赤色ノ線狀若クハ斑點ヲ見ルコトアリ以上ノ症候漸次亢進スルニ從ヒ眼鼻ノ分泌液愈増加シ呼吸益困難ヲ加ヘ下痢甚シク終ニ虛脱シテ斃ル

第二 炭疽熱

學語

アントラクス

英國語

アンストラクス

佛國語

シャルボス

獨國語

ミズランド

炭疽熱ハ急性傳染病ニシテ瘴氣ヨリ起リ草食獸ニ發シ又他ノ畜類及人ニ傳染ス此病ハ俄然發スルモノ多ク其急性ナルハ動物類ニ卒倒シテ墮落シ五分乃至十分時間ニシテ斃ル又途中若クハ夜間ニ發病シ鼻口及肛門ヨリ血液ヲ漏シテ斃ル、モノアリ或ハ初起食慾泌乳共減少シ體温増昇シ外部ノ溫度定マラス戰慄ヲ發シ各部ノ粘膜甚シク紅ヲ潮シ若クハ帶黄色ヲ呈シ瘰ニ血液及粘液ヲ混シ呼吸疾促脈搏増進大ニ狂亂苦悶シ往々痙攣ヲ併發シ或ハ痙攣トナリ或ハ感覺ヲ失フ斯ノ如キ場合ニ於テハ一般ニ熱勢亢進シテ衰弱ヲ加ヘ鼻口及肛門ヨリ血液ヲ漏泄シテ終ニ斃ル稀ニハ快復スルモノアリ或ハ熱度増シ皮膚ニ一箇若クハ數箇ノ腸癩ヲ發ス其狀圓クシテ凸隆シ熱痛ヲ帶ルモ忽チ減退ス試ミニ之ヲ壓スレハ氣音ヲ發シ之ヲ破黃色ノ液ヲ漏ス或ハ舌咽喉若クハ肛門ニモ亦之ヲ發スルコトアリ

第三 鼻疽及皮膚

學語

マレウス、ヒウミダス、エトハルチミノズス

英國語

Malleus Humidus et Farcinarius.

佛國語

Glansers amp Farcy.

獨國語

モルブ、エトアルサン

Morve et Farcin.

ロツン、サン、アウエルム

Polz und Wunn.

鼻疽及皮膚ハ馬族特異ノ傳染病ニシテ二者同性ノ症ナレトモ其患部ヲ異ニシ互ニ誘發スルモノナリ即鼻疽ハ專ラ鼻ノ膜肺及水脈系ヲ侵シ皮膚ハ皮膚下結締織及

水脈系ヲ襲フモノニシテ此病ハ人山羊羊兔及其他ノ畜類ニ傳染ス
鼻道ノ主微ニ三アリ(其一)鼻ノ一孔若クハ兩口ヨリ少量ノ粗稠液ヲ漏泄ス其液ハ
一種特異ノ濃様液ニシテ其狀宛モ菜種油ニ蛋白ヲ混シタルカ如シ(其二)顎下水脈
腺腫脹ヲ發シ概テ下顎骨ノ内側ニ固着シテ腫脹セス(其三)鼻粘膜ニ惡性潰瘍ヲ生
ス當初ニ在テハ帶黃色ノ小膿疹若クハ小結節ナルモ増大破爛シテ潰瘍ニ變ス其瘍
底ハ凹陷シテ脂肪狀ヲ呈シ少量ノ惡性膿ヲ漏ス病勢充進スルニ從ヒ齒ニ鼻粘膜ヲ
侵スノミナラス咽喉肺氣管支喉嚨及ヒ頭ノ諸骨ニ波及シテ各其症候ヲ呈ス末期ニ
至レハ呼吸困難ヲ加ヘ咳嗽頻發皮膚粗剛毛色光澤ヲ失ヒ全身漸ク羸弱ス
皮疽ハ皮膚ニ局發シテ多ク四肢頭脛胸腹或ハ其ノ他ノ部位ノ皮下ニ豌豆大乃至胡
桃大ノ結節ヲ生シ初ハ硬固ニシテ且疼痛アリ然レハ漸次其結節ノ中心ヨリ破潰シ
黃色ノ液ヲ液泄シ皮上ニ凝着シテ痂ヲ結ヒ而シテ其瘍面ヨリ絶ヘス膿汁ヲ漏泄ス
病勢充進スレハ腫脹累發シテ體ノ諸部ヲ侵シ終ニ遺爛シテ血液ヲ漏スコトアリ其
他各潰瘍ニ連絡セル水脈管ハ腫起シテ索狀ヲ呈シ水脈腺亦腫脹ス而シテ久キヲ經
レハ大ニ羸弱シテ終ニ斃ル

第四 傳染性胸膜肺炎

學語

ペリプニエノモニア コンタギナサ
Perypneumonia Contagiosa.

英國語

コンタギアス プリニエローニエーモニア
Contagious Pleuro-Pneumonia.

佛國語

ペリプニエーモニア コンタジニース
Pelypneumonie. Contagieuse.

獨國語

ハンゲンソイ
Hungensoei.

傳染性胸肺炎ハ牛族特異ノ熱性傳染病ニシテ概テ左肺ノ一葉ヲ侵シ其小葉間質

ノ滲出液ヲ發シ尋イテ胸膜炎ヲ續發ス

此病ノ徵候ヲ大別シテ二期トス即第一期ハ短渴ノ咳嗽ヲ發シ漸々其數ヲ増シ濕聲
ノ痛咳頻發シテ體温充進シ呼吸疾促食慾泌乳共ニ減少シテ病勢増進ス第二期ニ至
レハ熱勢大ニ充進シテ胸膜肺炎ノ諸徵尤明瞭トナリ鼻端乾燥シ耳角ノ冷熱定マラ
ス食慾反嗜泌乳共ニ休止シ通便秘澁前肢ヲ開張シテ起立シ臥スルコトヲ欲セス鼻
孔開給シ腫部ノ波動甚シク呼吸スル毎ニ呻吟ス試ミニ背要及肋間部ヲ壓スレハ苦
悶ヲ訴ヘ病久キヲ經レハ呼吸益困難ヲ加ヘ倦怠羸瘦甚シク下痢ヲ發シ呼吸臭ヲ帶
ヒ漸次虛脱シテ斃ル

第五 傳染性口瘡

學語

アフシス コスタシナサ
Aphhis Contagiosa.

英國語

フートメントマウス チシース
Foot and Mouth Disease

佛國語

ストーマチック アフトース
Stomatie Aphtheuse

獨國語

モールウントクテウエンソイ
Maul und Kauen Seuche

傳染性口瘡ハ瘴氣性發疹傳染病ニシテ蹄蹄獸ニシテ發シ熱ヲ帶ヒテ口内趾端或
ハ乳房等ニ水泡ヲ局發ス

此病ニ罹ルトキハ初メ發熱シ食慾反嗜共ニ減少或ハ休止シ口内趾端乳房或ハ鼻端
等ニ忽チ大小許多ノ水泡ヲ發ス

咳痘破潰スレハ初メ澄液ヲ漏シ後ニ至レハ渾濁シ膿様ノ液ニ變ス或ハ口内ニ水泡
ヲ發スルトキハ其粘膜剝脱シテ紅色ノ爛斑ヲ呈シ頻ニ唾液ヲ漏ス而シテ蹄間或ハ
蹄冠部ヲ浸シ甚シキニ至テハ跛趁トナル此病ノ經過ハ概テ二週間許トス

第六 羊痘

學語

ウアリナラ オウイナ

英國語

Uariora Ouma.

佛國語

シーフ ホツクス

獨國語

Sheeg-Pox.

クラウエル

Clauelle.

シヤーフホツケン

Schaf-Pocken

羊痘ハ熱性疹傳染病ニシテ皮膚ニ痘ヲ發生シ羊族ニ蔓延シテ大ニ猖獗ヲ極メ獸類痘瘡中最危險ナルモノナリ

此病ハ初メ發熱シテ不安ノ狀ヲ呈シ食慾嚙反共ニ減少シ體毛ノ稀疎ナル局部即顔面或ハ肢脚ノ内而ニ紅斑ヲ呈シ豆大ノ痘ヲ發生シ二三日ヲ經レハ中ニ淋巴液ヲ醸成シ後膿化シ終ニ破爛シテ乾涸網結痂シ二三週間許ニシテ脱落ス

第三章 清潔法

○布告第百六十三號 明治六年五月十五日

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候所温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナシス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場合ニテ養養ノ備堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ効外便宜ノ地ニ立退養養可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空閑ノ地ト雖モ養養不相候尤モ乳汁搾取ノタメ養養候ハ被差許候得共不潔臭穢ノ儀モ有之候ハハ詮議ノ上可令取拂事

○太藏三號 達明治七年一月九日

昨明治六年第百六十三號ヲ以テ公布相成候趣者專人命保護ノ爲メ市街等人家稠密之地エテ養養候ヲ制限等ニ候條山村僻邑等ハ實地適宜ニ斟酌可致事

○内務省乙第百十七號 達明治十年十二月廿八日(府縣東京)

便所下水芥溜ノ構造及掃除ノ不行届ヨリ其不潔物自然飲水ニ混シ各種流行病ノ原トナルモノ不勘就中虎列刺之病毒ハ永ク吐瀉物中ニ存シ土中ニ滲透シテ遂ニ飲水ニ混シ人身ニ入ルヲ以テ流傳ノ要路トナスカ故ニ本年虎列刺病有之地方ニ於テハ冬日返寒ノ時ニ乘シ便所下水芥溜等(井水近圍ニアルモノ)各地ノ便宜ニ從テ修繕掃除ノ方法ヲ設ケ該毒再萌ノ豫防精々注意可致其他ノ地方モ豫テ管下人民ニ告諭シ漸次行届候様注意可致此旨相達候事

追テ本文施行ノ方法ハ當省エ届出ヘシ且右費用ノ儀ハ本年當省乙第九十七號達臨時費目ニ不相立候條官民ノ區別ヲ立該廳限適宜可取計事

○内務乙第二十六號達 明治十一年三月十四日(東京警視)

昨年十二月乙第百十七號ヲ以テ下水便所芥溜掃除ノ儀相達候處下水ヲ浚エタル淤泥並塵芥ヲ市街ノ傍ニ堆積シ及市街ノ道路修繕ニ供シ候テハ却テ危害ヲ醸シ候條可成市外人家遠隔ノ地ニ搬出候様措置可致此旨爲心得更ニ相達候事

追テ人家隔リタル田畑ノ培養ニ供シ候儀ハ不苦候事

○本縣令第七十七號 明治二十年十一月一日

下水溝廁圍塵溜構造規則

第一條 下水溝廁圍塵溜新設改造ノ節ハ豫メ所轄警察署分署又ハ巡查出張所ニ届出此規則ニ依リ構造スヘシ尤既設ノ下水溝廁圍ハ改造ノ時ヨリ本則ニ從ヒ塵溜及第七條ニ抵觸スル廁圍ハ明治二十一年三月限改造スヘシ但既設ノ下水溝廁圍ト雖モ必要ト認ムルモノハ改造若クハ修繕セシムルコトアルヘシ

第二條 下水トハ井戸流シ及厨湯飯雨水等総テ汚穢ヲ疎通スル溝渠ヲ云フ
第三條 下水溝ノ底周圍ハ切石煉瓦木板等ヲ以テ構造シ漆喰又ハ棋皮ニテ其間隙ヲ
填充スヘシ

第四條 下水溝ハ必ス適宜ノ勾配ヲ付シ汚水ヲ阻滯セシメス無害ノ地若クハ河海ニ
排泄セシムヘシ

第五條 下水溝ハ石又ハ木材ヲ以テ成ルヘク覆蓋ヲ設ケ臭氣ノ飛散ヲ防クヘシ

第六條 共同使用等ノ下水溝廣大ニシテ第三條第五條ノ構造ヲナシ難キトキハ所轄
警察署分署又ハ巡查出張所ノ検査ヲ受ケ充分ナル勾配ヲ付シ汚水ノ阻滯セサル様
構造スヘシ

第七條 厠圍ハ井戸(食料)ヲ距ル一丈以上ニアラサレハ設置スルヲ得ス

第八條 糞尿地ハ陶器(索焼ヲ除ク)若クハ漆喰製ニテ構造シ其周圍ハ漆喰ヲ以テ斜
形ニ塗塞シ尿管ヲシテ地中ニ透透セシメサル構造ヲナスヘシ若シ止テ得サル場合
ニ於テハ木材ヲ使用スルヲ得ルト雖モ其構造堅牢ナルヲ要ス

第九條 厠圍ノ外部ハ壁又ハ板ヲ以テ之ヲ圍ヒ臭氣ノ放散ヲ防止スヘキ構造ヲナス
ヘシ但上部ニ窓ヲ設クルハ妨ケナシ

第十條 塵取ハ各戸ニ桶或ハ箱等適宜ニ設置シ掃除セシ塵芥ハ堆積セサル様燒却又
ハ相當ノ処置ヲ爲スヘシ

第十一條 塵溜場ヲ設ケントストキハ衛生上障害ナキ場所ヲ撰ミ豫メ所轄警察署
分署又ハ巡查出張所ノ検査ヲ受クヘシ但共同ニ係ルモノハ適宜境域ヲ爲シ左ノ木
標ヲ建設スヘシ

長曲尺五尺
幅全方五寸



裏面 明治何年何月何日検査

第十二條 前條ノ共同ニ係ル塵溜場ニハ引受人ヲ定メ其住所姓名ヲ所轄警察署分署
又ハ巡查出張所ヘ届出ヘシ

第十三條 塵溜場ハ常ニ塵芥ノ堆積セサル様燒却又ハ相當ノ處置ヲナスヘシ

第十四條 此規則ハ各郡町名ヲ付シタル地及ヒ其町ニ人家連續ノ地其他左ノ村落人
家連接ノ地ニ於テ施行ス

宮崎郡
田野村ノ内學ノ木
北那珂郡
木原村ノ内清武町

吉村ノ内蟹町
田吉村ノ内赤江町
折生迫村ノ内折生迫
内海村ノ内内海

南那珂郡
西方村ノ内上町、中町、今町
南方村ノ内金谷
濁上村ノ内外ノ浦
中村ノ内榮松、目井津
下方村ノ内大堂津
宮浦村ノ内吹毛井

北諸縣郡
安永村ノ内庄内町

西諸縣郡
栗下村ノ内加久藤町
原田村ノ内字飯野町

東諸縣郡
北俣村ノ内綾町

兒湯郡
蚊口浦ノ内蚊口

東臼杵郡

幸脇村ノ内幸脇 門川村ノ内飯屋 櫛津村ノ内土々呂、宮野浦村、島野浦村
西臼杵郡 尾末村ノ内尾末 土々呂

三田井村ノ内三田井町

第十五條 本則第一條第三條第四條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十
三條ニ違背シ又ハ第一條但書ノ命令ニ從ハサル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ
據リ処分セラルヘシ

○第四章 藥品

○太政官達 明治元年閏四月

阿片煙草ハ人ノ精氣ヲ耗シ命數ヲ縮メ候品ニ付兼而御條約面ニ有之候通リ外國人持
渡候事嚴禁之処近頃竊ニ舶載之聞ヘ有之滿一世上ニ流布致シ候テハ生民之大害ニ候
間賣買之儀ハ勿論一己ニ吞用ヒ候儀決而不成候若御制禁相犯シ他ヨリ顯ルハニ於
テハ可処被嚴科候間心得違無之様末々ニ至迄堅ク可相守者也
右御達シ諸府藩縣一同高札ニ揭示可致様被仰出候事

○布告第四百四十二號 明治五年五月三日

鼠取或ハ蠅取藥ト唱ヘ響石ノ類ヲ調合致シ世間ニ賣買致來候處自今令禁止候事
○本甲第六拾壹號 明治十七年十一月二十八日

賣藥規則外ニ屬スル諸製藥即チ鼠取藥蠅取藥蚤虱ウセ藥其他飲食物ノ損敗ヲ修治防
止スル諸藥等總テ人醫治病ノ目的ニ非ラサル藥劑ヲ調製販賣セントスルモノハ其藥
味分量用法効能等ヲ詳記シタル書面ニ該製品相添願出許可ヲ受クヘシ此旨布達候事
(該製品相添ノ下「郡役所ヲ經由シ」ノ七)
○守十九年五月甲第四〇號ヲ以テ刪除
但從前許可ノモノハ本文ニ準シ本年十二月三十一日限届出ヘシ

○内務丙第四十四號 九年八月二十五日

鑽泉

長野縣外三十一縣

司藥場設置以來鑽泉分析試驗ノ儀追々申出候向有之候処其採酌法不得宜ヨリ往々其
成分變性シ就中遊離氣類有之モノニ至リテハ多少蒸散ヲ不免其力爲精密ナル試驗難
及候條同場事務ノ緩劇ヲ圖リ試驗主任ノ者ヲ派遣シ實地ニ就テ試驗セシメ候上運搬
要スル分ハ採酌法等詳細示談可及候條其節マテ差出見合可申此旨相達候事

○内務乙第三十六號達 明治十年三月

從來燐製之鼠取藥ヲ以テ賣毒トナシ候儀開届鑑札下渡候向有之候処右ハ毒藥ニテ到
底民間誤用之虞ナキヲ免レス殊ニ本年太政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締
上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ鑑札返納可取
計此旨相達候事

但請賣藥之モノモ同様賣藥規則ニ照シ禁止之処分可相達事

○布告第二十三號 十三年五月十五日

石炭酸其他劇藥ハ本年一月第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ処傳染病
流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣
望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

○布告第二十一號 十一年八月九日

藥用阿片賣買並ニ製造規則

第一條 阿片ノ賣買及製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其內國產物若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定

メテ之ヲ買上ケ地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ拂下シム

第三條 地方廳ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗場ノ

ノ印紙ヲ貼付スルモノトス

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ撰ミテ內務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ醫管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立テ其拂下ヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ヲ請フコトヲ得

第八條 凡醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要ズルトキハ其量目並ニ其住所姓名又年月日病況ハ其名稱及ヒ院名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ処方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖並ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ九匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一船藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケ受ケルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但外務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其應ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ(モルヒ子)ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 內務省ニ買上ケ及ヒ拂下クル阿片ノ(モルヒ子)含最買上品ハ百分中ニ九分以上拂下品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五拾圓ヨリ五百圓以上ノ罰金ヲ科スヘシ

○內務甲六廿七號布達 十一年十一月二日
本年八月大政官第二十一號布告阿片賣買並製造規則ノ儀ハ來ル明治十二年五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

○大藏乙第三十三號 十二年八月廿一日(府縣內務卿)連署
本年二月乙第十二號ヲ以テ酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ノ取扱方相違置候處右違書

ニ掲載セル品目外ノモノニシ酒類ヲ和スト雖モ全ク毒性ヲ浸出スルニ止マルモノハ酒類稅則ノ限ニアラス其酒類ニ依リ製藥又ハ賣藥ノ免許可爲受儀ト可相心得此旨相達候事

但酒造營業人及酒類受賣營業人ニ於テ精酒或ハ再餾酒精ヲ蒸餾シ又ハ販賣スル者ハ酒類稅則中燒酎ノ明文ニ據リ課稅スヘシ

○法律第一〇號 明治二十二年三月十三日

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥品ヲ調合スル者ヲ云フ

第二條 藥劑師ハ其學行試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ニ願出ツヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三円ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損シ失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ內務省ニ願出ツヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金一圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ツヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二個所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設ルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サン」チグラムニテ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名年齢姓名分量用法用量處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證書ヲ得ルニ非ラサレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ騰寫シ置クヘシ

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師捺印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調印スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニヨリ内外用ノ別用法用量年月日患者ノ氏名藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲナス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許證札ヲ受クヘシ
第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ
零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ
第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許證札ヲ受クヘシ
第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スル
コトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀品質該局方ノ所定ニ適合スル
モノニ非ラサレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其
性狀品質該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非ラサレハ販賣若クハ授與スルコトヲ
得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記
スルモノニ非ラサレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名量數使用ノ目的年月日及
住所氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非ラサレハ之ヲ販賣若クハ授與
スルコトヲ得ス
前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル
者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記
シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師テニ於醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三
十二條ノ手續ヲナスヲ要セス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及ヒ第三十二條ニ記載シタ
ル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコ
トヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅句
語又ハ他ノ外國語併ト記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ル
モノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名
ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セ
シムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十
二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタルモノハ十圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第四十二條 内務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ
醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥圖藥ヲ買取ルヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學醫學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニヨリ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出スルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルヲアルヘシ

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス
○本縣々令第十一号 二十三年二月十五日

藥種商並製藥者取締細則

第一章 總則

第一條 藥種商並製藥者免許證札ヲ受ケントスル者ハ開業スヘキ場所及族籍住所氏名生年月ヲ詳記シ願出ツヘシ

第二條 藥種商並製藥者免許證札ヲ毀損亡失シ又ハ族籍氏名ヲ變換スル等證札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事出テ記シ證札書換又ハ再渡ヲ願出ツヘシ

第三條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及ヒ製藥ノ業ヲ營ントスル者ハ第一條ノ免許證札ヲ受クルニ及ハスト雖モ該條ニ準シ届出テ其他尙ホ第四條第五條第十四條ヲ遵守スヘシ

第四條 藥種商並製藥者管内ニ轉居シ又ハ製藥所ヲ移轉シタルトキハ其旨届出ヘシ

第五條 藥種商製藥者廢業又ハ死亡シ若クハ他府縣ニ轉住セントスルトキハ其旨届出テ免許證札ヲ返納スヘシ

第六條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ但衛生試驗所ノ檢査印紙ヲ貼付シタルモノハ此限ニアラス

第七條 藥種商製藥者ニ於テ使用スル封緘用印紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ラハシキ者ト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第二章 藥種商

第九條 藥種商ハ左式ノ標札ヲ店頭ニ掲クヘシ

免 藥種商 宮崎縣何郡何町氏名 尺一市

許 藥種商 宮崎縣何郡何町氏名 尺一市

地ノ警察本部へ本人ノ郡町村氏名年齢及藥品ノ斤量需用ノ目的等ヲ詳記シ時々通知セラルヘシ

○本 縣訓令第三百八十二號 二十二年十一月二十二日 各部

明治二十二年十一月縣令第七十五號ニヨリ官設工場ノ用ニ供スル爲メ藥舖藥種商ヨリ格魯兒酸加瀋(鹽素酸加瀋)ヲ買入ル場合ハ講求證ヲ渡シ届書ニ連署セサルモ

妨ケナ

○本 縣訓令 二百八十二號 二十二年十一月二十二日 (警務局)

明治二十三年十一月縣令第七十五號ニヨリ藥舖藥種商ヨリ陸軍其他官設工場へ格魯兒酸加瀋(鹽素酸加瀋)ノ賣納ニ係ル届書ハ其講求證アルモノニ限り買主ノ連署ナキモ妨ケナシ

○本 縣指令第八〇四一號 二十二年十二月二十二日 東臼杵郡役所

明治二十二年十二月五日甲第四一二號ヲ以テ小學校化學試驗用ノ爲メ格魯兒酸加瀋買入ノ儀伺ノ件ハ警察署ノ認可ヲ要スル儀ト心得フヘシ

甲第四一二號 二十二年十二月五日東臼杵郡長ヨリ知事ヘ伺

本年縣令第七十五號ヲ以テ格魯兒酸加瀋買受取締方被達候処右御達中何人タリトモト有之候ハ即チ一般人民ノ謂ヒニシテ郡長ニ於テ管理小學化學試驗用ノ爲メ該品ヲ講入スル場合ノ如キハ別ニ警察署ノ認可ヲ受クルニ不及儀ト心得可然

○内務省指令甲第二三七號 二十三年七月廿一日栃木縣知事伺へ内務大臣指令

本年七月十七日往第一一六號伺消毒藥販賣ノ件ハ消毒藥ニ調製シタルモノニ限り伺之

往第一一六號 (七月十七日栃木縣知事伺)

消毒藥販賣之儀伺

藥品販賣之儀ハ總テ明治十三年大政官第一號布告ニ據ルヘキ等ノ処石炭酸其他ノ劇藥ト雖モ傳染病豫防消毒藥ニ限リテハ藥舖ニ於テ販賣被差許旨全年第二十三號ヲ以テ布告相成然ルニ客年法律第十號ヲ以テ藥品營業并販賣規則御制定ニ付右一布告ハ本年二月限り消滅致候得共元來廿三號布告ハ傳染病豫防上ノ便利ヲ圖ラレ消毒藥ヲ特ニ一布告ノ範圍外ニ置カレタルモノニテ依然現存致居候儀ト相心得普通藥種商ニ零價差許可然ヤ目下季節柄營業者ヨリ伺出ノ向モ有之候間至急何分ノ御指相成度此段相伺候也

○本 縣規甲第十三號 明治十九年二月十七日

前藥規則違犯者処分之儀別紙甲号請訓ニ對シ乙号ノ通内訓相成候旨其筋ヨリ 十九年日第六八八号ヲ以テ通牒有之候條爲心得此段及通知候也 二月四日 法省刑事局長ヨリ 通牒有之候條爲心得此段及通知候也 甲號 金澤裁判所 明治十二年十一月廿七日請訓

第一條 明治十年八月第九號公布第一條此規則ニ稱スル處ノ藥トハ

中 販賣スルモノヲ云フトアリ然ルニ傳染病蔓延ノ際ニ限リ該鑑札ニテ効能書ヲ付セス一時製藥ヲ販賣スル者ハ賣藥規則第二十三條ニ依リ効能書ヲ付シテ効能書ヲ付シタル者ト聊差異ナキニ似タリ又第廿三條無鑑札ニテ業スル者中略罰金ヲ科スヘシトアルハ効能書ノ有無ニ拘ハラス私ニ製藥ヲ却スル者ヲ罰スルノ正條トナシ乃示此則ニ依リ処罰メヘキヤ

乙號 明治十二年十月九日內訓

賣藥規則ノ儀ニ付申請ノ趣第一條第廿三條ニ依リ処罰スル儀ト心得ヘシ

○第五章 墓地

○大藏 第一百十八號達 明治五年八月晦日
人民所持ノ耕地畔際へ擅ニ遺骸ヲ埋葬致シ候者有之趣以ノ外ノ事ニ候自今可爲嚴禁事

○大藏官第三百五十五號達 明治六年十月廿三日(使)府縣へ)

從來猥ニ墓地ヲ設ケ儀ハ不相成候処今般私有地ノ證券相渡候上ハ心得違ノ者モ難計ニ付耕地宅地ハ勿論林藪タリトモ許可ヲ得スシテ新ニ墓地ヲ設ケ或ハ區域ヲ取廣ケ候儀可令禁止就テハ忽墓地差支候鄉村モ可有之候條管下一般諸寺院境内ヲ始其他永久地ニ定ムヘキ場所取調圖面ヲ副ヘ大藏省へ可伺出此旨相候達事

但即今墓地差支候場所ハ相當ノ処分致シ置本文ノ旨至急取調可申尤管下總休一時取調出來兼候ハ、差向墓地差支候鄉村ヨリ取掛リ逐次同省へ可伺出事
○官 第五十九號達 明治七年五月二日(府縣へ)

上世以來御陵墓ノ所在未定ノ分即取調中ニ付各管内荒蕪地開墾ノ節口碑流傳ノ場所ハ勿論其他古墳ト相見ヘ候地ハ猥ニ發掘爲致間數候若差向懇關ノ地ニ有之分ハ繪圖面相副教部省へ可伺出此旨相達候事

○內務乙第八十號達 八年六月廿四日(府縣へ)

此葬ノ儀第八十九號ノ通御布告有之候ニ付テハ燒場ノ儀左ノ心得ヲ以テ取扱可申此旨相達候事

一燒場ハ東京府下ハ朱引外其他ノ地方ハ市街村落ノ外渾テ人家遠隔ノ地ニ於テ海稅地又ハ借地料等無之地ヲ撰ミ最寄市村申合共用致サスヘク尤官有地又ハ民有地ノ空新創相設ケ候積リ取調可伺出事

舊燒場官民有地從前ノ儘使用スル土地及ヒ新規拂下タル土地ハ民有地第二種ニ可組入事(九年乙第百二十三號省達ヲ以テ全條改正)

一燒場ハ火爐烟筒及ヒ牆壁等ヲ設ケヘシ尤モ人家遠隔ノ山野等ニ於テハ適宜簡易ノ裝置ヲナスモ不苦候事十三年乙第五十號省達ヲ以テ改正

一燒場造築修繕等一切ノ入費ハ人民ノ自辨勿論ニ候得共都テ不都合無様區戶長ニ於テ注意取締可爲致事

一遺骨ヲ此場中ニ埋葬候儀ハ不相成候事

○大藏乙第三十七號達 十三年十一月一日(府縣)

耕宅地ニ非ラサル民有地ヲ共葬墓地ニ撰定候分地蠲租除ノ儀自今委任候條事由ヲ具シ其時々可届出此旨相達候事

○大藏第二十三號達 十六年五月八日(府縣)

民有耕宅地ヲ共葬墓地ニ撰定方内務省ニ於テ許可シタル分ニ係ル地稅蠲除ノ義自今處分濟ノ上事由ヲ具シ其時々可届出此旨相達候事

○大藏官第二十五號布達 十七年十月四日

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲スヲ得ス但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戶長ノ認許証ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許証ヲ得タルモノニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可証ヲ得タルモノニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ
第七條 凡碑表ヲ建設セント欲スル者ハ處轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得ス
シテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府縣知事ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ
願出ヘシ

十七年十月四日

○太政官第八十二號達

(警視廳府縣)

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違背
罪ノ刑ヲ以テ処分スヘシ此旨相達候事

○内務乙第百四十號達 十七年十一月十八日(府縣)

本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ事件ヲ標準トスヘシ此旨相達
候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル但已ムコトヲ得サル事情アリテ之レヲ取
廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以
上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタル
モノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區別シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍地ト境界ナクニ非サルニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上
ノ樹木植栽ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサ
ル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 廣穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬
ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戸長役場ニ届ケ置ク
ヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳位法及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ
誌銘傳資等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又
ハ戸長ノ認許証ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル
時ハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許証ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死産証差出シ區長又ハ戸長
ノ認許証ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡届證書寫ニ司獄官
ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區戸長ハ前條ノ届證書ヲ領收スルニアラサレヘ埋火葬ノ認許証ヲ與フヘ
カラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許証ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署ノ檢閲ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ

○本縣 甲第三十五號 明治十八年三月十二日

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地及火葬場ヲ設置セントスルトキハ其位置ヲ撰ミ戶長衛生委員與書ノ上所轄警察署又ハ分署ヘ願出實地檢査ノ証ヲ受ケ第一第二ノ内該當ノ書式ニ倣ヒ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出ヘシ

但民有地ナレハ地主ノ承諾証ヲ添付スヘシ(十八年六月甲第七十七號ヲ以テ改正)

第二條 墓地ハ附則第五條ノ制限ニ從ヒ其周圍ニ樹木ヲ栽ヘ經界ヲナスヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スルヲ許サス

但從前ヨリ現存スル墓地ハ此限ニアラス

第三條 火葬場ハ附則第六條ノ制限ニ從ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且ツ周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ臭烟ノ人家ニ達セサル場所ハ適宜簡易ノ裝置ヲナスモ妨ケナシ

第四條 墓地及火葬場ハ一町村以上ノ共用タルベシト雖モ其他ニ於テ死亡シタルモノニシテ埋火葬ヲ要ストキハ何地ノ人ヲ問ハス墓地又ハ火葬場ノ管理者及ヒ共用者ニ於テ之ヲ拒ムヲ得ス

但從來許可ヲ得タル墓地ハ一町村以上ノ共用ニアラサルモ舊慣アルモノハ猶埋葬スルヲ得

第五條 死刑ニ處セラレタル者ハ前條墓地ノ一隅ヲ區畫シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第六條 墓地及火葬場ハ共用者ニ於テ協議シ必ス管理者ヲ撰ヒ其住所姓名ヲ所轄警察署又ハ分署及戶長役場ヘ届出ヘシ

但管理者ハ其町村衛生委員ヲ以テ兼子シムルヲ得

第七條 墓地及ヒ火葬場ハ他用ニ充ツルヲ許サス

第八條 傳染病墓地ハ某町村共用傳染病死屍埋葬地ト文書シタル目標ヲ建設スヘシ

第九條 死亡人アルルハ左ノ區別ニ從ヒ其家族又ハ隣祐等ニ於テ其届書等ヲ請求セ戶長役場ニ差出シ埋火葬認許証ヲ得テ之ヲ墓地及火葬場管理者ニ渡シ埋火葬ノ承認ヲ得ヘシ

但傳染病者ノ死体ハ二十四時間以内ト雖モ埋火葬スルヲ得ヘシ(十八年六月號ヲ以テ追加) 甲第七十七

一 通常病死ニ係ルルハ主治醫ノ死亡届書若シ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルルルハ醫師ノ檢案書

一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルルハ醫師若クハ産婆ノ死産證

一 變死ニ係ルルハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印アルモノ

一 囚徒ノ死屍ヲ引取埋火葬セントスルモノハ獄醫ノ死亡証書寫ニ司獄官ノ檢印アルモノ

第十條 改葬セントスルルハ其事由及死亡ノ年月日ヲ詳記シタル願書ニ戶長衛生委員ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出認可ヲ受クヘシ

本埋葬地ト發掘地ト戶長ノ擔當ヲ異ニスルトキハ原籍地ノ戶長ト埋葬地及發掘地ノ衛生委員ニテ連署スヘシ(十八年甲第六十二號)ヲ以テ但書追加

第十一條 囚徒ノ死屍ヲ引取改葬セントスルトキハ願書ニ司獄官ノ檢印ヲ受前條ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 廣穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ

但土地ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ及葬火ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ此限ニアラス

第十三條 墓地及火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第十四條 葬火シタル灰燼ハ火葬場内一定ノ場所ニ埋却シ他所ニ投棄スルヲ許サス

第十五條 管理者ハ引取人ナキ囚徒ノ埋火葬ニ係ルトキハ司獄官ノ證書アルニアラサレハ承認スヘカラス

第十六條 管理者ハ葬主戸長及司獄官ヨリ領收シタル埋火葬認許證等ヲ編纂シ每三

ヶ月所轄警察署又ハ分署若クハ巡查駐在所ノ檢閲ヲ受ケ之ヲ戸長役場ヘ差出スベシ

(二十二年四月縣令第

シ)二十四号ヲ以テ改正

第十七條 管理者ハ左ノ例ニ依リ墓地及火葬場ノ圖面並墓籍ヲ調製スヘシ

一繪圖ニハ墓地及火葬場ノ坪數並四圍ノ實況方位等詳記スルモノトス

一墓籍ハ一ノ帳簿ヲ製シ死者ノ姓名及死亡ノ年月日等ヲ詳記スルノトス

一死亡者アリテ墓籍ニ記載スルトキハ順次番號ヲ附記スルモノトス

第十八條 本則及此細則ニ違背シタルモノハ違警罪ニ據リ罰セラルヘシ

附則 第一條 墓地及火葬場ヲ設置セントスルトキハ第一第二ノ内該當ノ書式ニ倣ヒ縣廳

ヘ出願スヘシ

但民有地ナレハ地主ノ承諾書添付スヘシ

第二條 墓地及火葬場ハ一町村以上ノ共同ニシテ各(通常墓地傳染病墓地火葬葬)壹ヶ所ニ限り種

族若クハ宗旨ニ依リ別設スルヲ許サス

但一町村内部落數個ニ分レ其距離遠隔等ニシテ實際別設ヲ要スルモノハ調査ノ上特ニ許可スルヲアルヘシ

第三條 墓地ハ從來ノ地所狹隘ナルカ又ハ止ヲ得サル事情アルニアラサレハ新設ヲ許サス

第四條 既設ノ墓地下雖モ衛生上障礙アリト認ムルキハ埋葬ヲ停止シ又ハ改葬セシムルヲアルヘシ

第五條 墓地ハ國道縣道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ツルヲ(通常墓地ハ凡ソ六十間傳)以上ニシテ土地高燥飲用水ニ害ナキ地ヲ撰フモノトス(染病墓地ハ凡ソ百二十間)以

第六條 火葬場ハ人家及ヒ人民輻輳ノ地ヲ隔ツルヲ凡ソ百二十間以上ニシテ人家ノ

風上ニ位セサル地ヲ撰フモノトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 墓地及火葬場ハ民有地ノ内成ルヘク薄稅地ヲ撰フヘシト雖モ適當ノ場所ナキトキハ官有ノ原野若クハ荒蕪地ヲ撰フモノトス

第九條 墓地及火葬場ニ關スル費用ハ總テ其共用町村ノ負擔トス

第十條 墓地又ハ其他ノ場所ニ死者ノ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ彫刻スル碑表ヲ建設セントスルモノハ其全文ヲ添ヘ所轄警察署ヘ出願スハシ

第十一條 戸長ニ於テ細則第九條ノ届書等ヲ受ケ不都合ナキモノハ第三書式ニ依リ

埋火葬認許證ヲ付與スヘシ

但引取人ナキ死亡人ニ係ルトキハ戸長ヨリ埋火葬認許證ヲ管理者ニ送付スヘシ

第十二條 戸長ハ前條ノ届書等ヲ領收スルニ非ラサレハ認許證ヲ付與スルヲ得ス

第十三條 戸長ハ細則第十六條ノ書類ヲ領收シタル片ハ之ヲ保存スヘシ

第一書式

日向國何郡何町何村字何

何番

一何地(素地ノ稱ヲ)反別何程

(共有ナレハ何郡何町何村)共有地ト記スヘシ

一人家ノ距離(前記ノ地所ヨリ近キ人家マテノ)間數ヲ記載スヘシ以下之做フ

一道路ノ距離(火葬場願ニハ以下三)項記スルニ及ハス

一飲料水ノ距離

一河流ノ距離

從來許可之(通常(傳染病)墓地(狹ニ付前記ノ地所ヲ以テ何町共用(通常(傳染病)墓地(火葬場)ニ相定度條間別紙圖面(及燒場構造法方書)並ニ實地御檢査ノ証相添ヘ此段奉願候也(十八年甲第七十七號ヲ以テ改正)

年月日

宮崎縣何郡何町村人民惣代

宮崎縣何郡何町村人民惣代

何町衛生委員

何町衛生委員

何町戶長

何町衛生委員

何町戶長

何町戶長

前書之通相違無之候也

宮崎縣事知何某殿

第二書式

埋火葬地設置ニ付官有地御拂下願

日向國何郡何町何村字何 反別何程ノ内

何番

一何地(素地ノ稱ヲ)反別何程

一第一書式ニ同シ

官有地

從來許可之(通常(傳染病)墓地(狹ニ付前記ノ地所ヲ以テ何町共用(通常(傳染病)墓地(火葬場)ニ相定度條間實地御檢査之上相當代價ヲ以テ御拂被下度別紙圖面(及燒場構造法方書)實地御檢査ノ証相添此奉願候也

宮崎縣何郡何町村人民惣代

何 某

印

年月日

以下第一書式ニ同シ

第三書式

(用紙半紙)

埋火認許之証

何國何郡何町何番戶住(寄留)身分

何

某 何年何ヶ月

右何年何月何日午前后何時死亡ス依テ此證ヲ附與ス

何郡何町外幾ヶ村

戶長

何 某

官印

○本縣丁第拾貳号 明治十八年三月廿五日(警察本署 全署)

今般甲第三十五号ヲ以テ墓地及埋葬取締細則布達候ニ付テハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ此旨相達候事

第一 改葬ヲ願出タル時ハ火葬ニアラサル虎列刺發疹室扶斯痘瘡三病ノ死屍ヲ除ク外之ヲ許可シ別紙書式ニ依リ許可證ヲ附與スヘシ

第二 前項許可ヲ與ヘタルトキ改葬地其他所轄ニ係ルモノハ其都度所轄警察署又ハ分署ニ通知スヘシ

第三 碑表建設願ヲ受理シタル時ハ篤ト死者生前ノ行狀履歷ヲ取糺シ意見ヲ附シ一應警察本署ヘ稟議ノ後許可スヘシ

第四 所轄ノ墓地及葬火葬場ノ地名番號並反別其他擔當管理者ノ住所姓名等明記シタル原簿ト圖面ヲ備置クヘシ

書式

改葬許可證 用紙美濃紙

何國何郡何町何番戶 士族平民

何 某

右何年何月何地ニ埋葬シタル何某ノ遺骸ヲ何地ニ改葬スルコトヲ許可スルモノ也

官崎縣

何警察署又署ハ分印

年月日
○内務訓第四九二号 (十九年七月)

死刑ノ処斷ヲ受ケタル者又ハ処斷ニ至ラステ死シタル者ノ爲メ誌銘傳替其他翼賛ノ意ヲ包含シタル碑表ヲ建設セントスルトキハ墓地及埋葬取締規則ニ據リ許可ヲ與フ可ラサルハ勿論ノ儀ニ候処右等ノ者ノ爲メ公衆ヲ集メ又ハ公集ニ顯示スヘキ方法ヲ以テ祭典ヲ執行シ若クハ建碑祭典等ノ爲メ資金募集ノ廣告ヲ爲スカ如キハ亦治安ニ關

係スヘキモノニ付詳ニ其狀況ヲ考ヘ治安ヲ妨害スルノ認メアルニ於テハ直ニ之ヲ差止ムルヲ要ス

○第六章 飲食物

○内務乙第三十五號達 十一年四月十八日

近年アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ着色スルモノ不勘越ニ候処右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽地ニ非命ノ横夭ヲ致スモノ有之危險ノ至リニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相達候事
追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判難致モノハ其原物相添當省衛生局ヘ照會試驗ヲ受可申事

○内務甲第十五號布達、十一年九月廿日

近年製氷營業人不潔ノ氷ヲ製シ候者有之不都合ノ儀ニ付自今右營業ノ者ハ毎年製造ノ節並ニ翌年發賣ノ節共前以管轄廳 東京府下東 京警視本省ヘ伺出檢査ヲ受候様可致此旨布達候事

○内務乙第八十八號達 明治十一年十二月廿日

各地方管内ニ於テ飲食物之中毒及ヒ藥物之誤用等ニヨリ死ヲ致ス者有之候節ハ其毒物之品名中毒之症狀並ニ死者ノ住所姓名等詳細取調其都度當省衛生局ヘ通報可致且毒物之成分判然セサル分ハ現品相添可差出此旨相達候事

○本縣甲第六十八號 明治十七年二月八日

牛乳搾取並販賣取締規則

第一條 牛乳搾取營業セント欲スルモノハ養場ノ位置ヲ撰ミ所轄警察所署又ハ分署ヘ願出實地檢査ノ証ヲ受ケタル上更ニ所轄郡役所ヘ出願シ營業證札ヲ受ケヘシ

第一條 料理屋トハ日本料理西洋料理鳥獸肉料理屋及鰻屋ヲ云ヒ飲食店トハ料理仕出屋酢屋並湯餛飩蕎麥羹賣雜羹汁粉醴ヲ自宅ニ於テ客ニ供シ營業スルモノヲ云フ

第二條 席貸及侍合茶屋ハ總テ本則ヲ適用ス

第三條 第一條第二條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ

第四條 轉居改氏名又ハ廢業シタル時ハ二日以内ニ其旨所轄警察署若クハ分署へ届出ヘシ

第五條 料理屋飲食店ニ於テハ藝妓若クハ遊藝稼人ヲ除ク外客席ニ於テ該營業ニ紛ハシキ所業ヲナサシムヘカラス

第六條 料理屋飲食店ノ雇人ハ男女ヲ別タス其本籍氏名年齢等ヲ詳記シ雇解共三日以内ニ所轄警察署又ハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第七條 料理屋飲食店ニ於テハ來客ヲ宿泊セシムヘカラス

第八條 通行人ニ對シ猥ニ飲食ヲ勸ムヘカラス

第九條 料理屋飲食店營業者ハ飲食費トシテ衣類其他ノ物品ヲ私擅ニ差押ユヘカラス但シ所轄警察署分署ノ認可ヲ得受授スルモノハ此限ニアラス

第十條 料理屋營業時間ハ日出ヨリ夜間十二時限リトス

第十一條 料理屋飲食店ニ於テ食物ヲ店頭ニ陳列スルトキハ硝子又ハ布巾類ヲ以テ覆テ爲スヘシ

第十二條 本則第三條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ処分セラルヘシ

○本縣指令第四七六號 二十三年一月二十八日 知事ヨリ高鍋署へ
 明治二十三年一月十六日乙第四六號何ノ件明治二十二年四月縣令第二十三號ニ據ラ

ス相當ノ取締ヲ爲スヘキ備ト心得ヘシ

乙第四十六號 二十三年一月十六日 高鍋警察ヨリ知事へ伺
 明治二十二年御達相成候料理屋飲食店營業者ハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘキ義ニ有之候処全則中芝居茶屋遊船宿ノ明文無之然ルニ右等ハ充分取締ノ必要有之モノト思料候得共全則外ノ營業者ナルニ依リ無取締ヲ要セサル儀ニ候哉何分御指令仰キ候也

第七章 屠場及斃牛馬

○大藏省達 四年八月

一 近來肉食相開候ニ付テハ屠牛渡世ノ者屠場ノ儀ハ人家懸隔ノ地ニ取設ケ病牛死牛トモ不賣鬻樣嚴重取締可申就テハ左ノ二ヶ條相守各地方官ニ於テ形ノ鑑札製造致シ屠場取開ノ場所巨細取調ノ上相渡シ當省へ追テ可届出事鑑札形略ス

一 牝牛ハ蕃息ノ基本ニ付總テ屠殺不致様取締可致事

但十二三歳以上孕牛ニ難相成分不苦候事

第二 開港場ニ於テ輸出ノ節取締ノ儀ハ其地方官ニ於テ見込相立取締可致事

但見込ノ趣追テ可申出事

○第七十六號布告 六年三月二日(府縣)

病死禽獸ヲ食料ノタメ致賣買候ハ兼テ嚴禁ニ候處天然老死或ハ尋常ノ病ニ斃候モノハ皮剥取骨肉等田圃ノ培養ニ相用候儀不苦候條於各地方右辨別厚ク可致注意候事

但流行病死ノモノハ燒棄勿論ニ候事

○本縣令第六十三號 明治二十一年九月廿九日

斃牛馬及獸類化製場取締規則左ノ通之ヲ定メ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

斃牛馬及獸類化製場取締規則

第一條 斃牛馬アリタルトキハ其飼主若クハ取扱人ヨリ速ニ所轄警察署分署又ハ巡查駐在所へ(書面又ハ口頭ニテ)届出埋没又ハ解剖チナスヘシ

第二條 傳染病ニ罹リ斃ルシタルモノハ總テ明治十九年九月農商務省令第十一号獸類傳染病規則ニ遵フヘシ

第三條 斃牛馬ハ斃牛馬捨場及獸類化製場ノ外埋没又ハ解剖スルヲ許サス

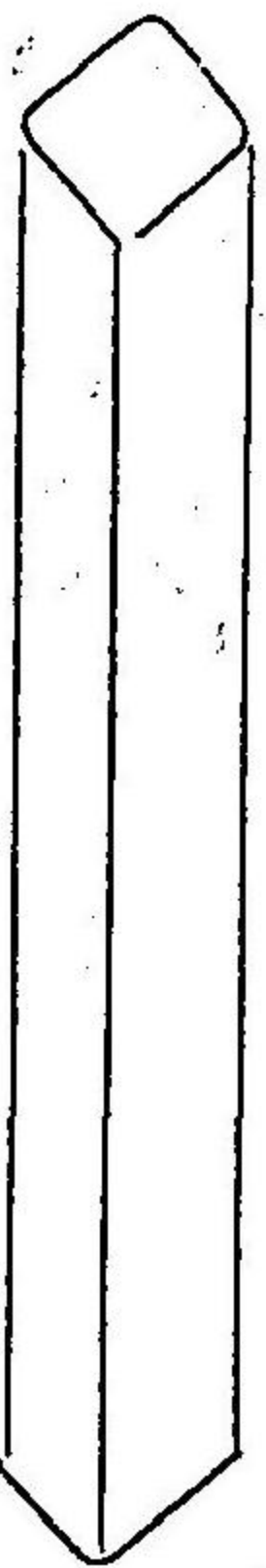
第四條 斃牛馬捨場獸類化製場ハ人家及國縣道路並ニ河水等ヲ距ル壹町以上ノ地タルヘシ但埋没スルニハ深サ六尺以上タルヘシ

第五條 斃牛馬捨場ハ前條ノ制限ニ從ヒ地主(借地ナレハ地主ノ連署)反別等ヲ記シタル圖面及ヒ隣接地主ノ承諾書ヲ添ヘ村町惣代三名以上連署(數町村共有ニ罹ルモノモ一町ニテ戶長ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署へ届出検査ノ證ヲ受ケ縣廳ニ出願スヘシ(廿二年六月縣令第五十五号ヲ以テ第五條第六條改正第七條追加)

第六條 獸類化製場並ニ斃牛馬未製造ノ骨皮肉腸等貯藏シ又ハ干燥セントスルモノハ前條ノ手續ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第七條 斃牛馬捨場並ニ獸類化製場又ハ諸獸骨腸貯藏場ニハ其入口公衆ノ見易キ處所ニ左ノ雛形ノ標木ヲ建設スヘシ

高五尺
方五寸



記載例

表面 斃牛馬捨場或ハ獸類化製場又諸獸骨腸貯藏場

左側 何年何月何日認可

右側 (營業人ナレハ)營業人何某何郡何町村(共有ナレハ)何郡何町村惣代人某裏面 何郡何町村字幾坪

第八條 斃牛馬捨場へ家畜(牛馬チ)ノ屍ヲ捨キルハ必ス深サ三尺以上ニ埋没スヘシ但牛馬ト雖トモ解剖シタルモノ又同シ

第九條 斃牛馬肉腸等運搬スルトキハ臭氣ノ發セサル様適宜ノ方法ヲ以テ之レガ取扱チナスヘシ

第十條 斃牛馬ノ肉ハ食料トナスヘカラス

第十一條 本則第一條第三條第五條第六條第七條第八條第九條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分ス

○本署第一四號 二十二年七月九日(警察署) 斃牛馬及獸類化製場取扱手續左ノ通之ヲ定ム

斃牛馬及獸類化製場取扱手續

第一條 警察署分署ニ於テハ左ノ臺帳ヲ備ヘ置クヘシ

一 斃牛馬臺帳
一 斃牛馬捨場 臺帳 (部門チ分チ) 獸類化製場 (整理スベシ)

諸獸骨腸貯藏場
第二條 規則第一條ノ届出ヲ受ケタル時ハ其種類牝牡年齡毛色等臺帳ヘ詳記スヘシ但臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ巡查チシテ之ヲ爲サシム可シ

第三條 規則第五條第六條ノ届出ヲ受ケタル時ハ必ス巡查チシテ規則第四條ニ抵觸ノ有無ヲ調査セシメ斃牛馬捨場ハ甲號書式ニヨリ検査證ヲ下付シ獸類化製場並諸

獸骨腸貯藏場ニシテ差支ナキモノハ乙號書式ニ依リ認可スヘシ

第四條 規則第六條ノ届出ヲ認可シ又ハ本部ヨリ第五條許可ノ通知ヲ爲シタル時ハ其年月日場所反別並ニ住所氏名等臺帳ヘ詳記スヘシ

第五條 獸類化製場ニ於テ斃牛馬捨場ヲ兼ヌル者ハ規則第六條ニ準シ取扱フヘシ
但臺帳ニハ其年月日等ヲ記入シ、雜セサル様整理スヘシ
第六條 斃牛馬ハ年二回一月七月種類仕化頭數等ヲ調査シ本部ニ報告スヘシ
甲號書式

實地檢査ヲ遂ケ候処(差支ナシ)又ハ(不適當ト認ム)
明治 年 月 日
警察署長又ハ分署長印
乙號書式

届出之取認可ス

(營業者ナ)但所轄郡役所ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ
(ケレハ)

明治 年 月 日

警察署長又ハ分署長印

○警規第十一號 二十三年四月廿二日 警部長ヨ(警察署)
屠獸並賣肉取扱手續左之通之ヲ定ム
リ各署ヘ(全分署)

屠獸並ニ賣肉取扱手續

第一條 警察署分署ニハ左ノ台帳ヲ備置クモノトス但巡查駐在所ニハ屠獸台帳ノミ

備置クヘシ

一屠獸場並

一屠獸營業臺帳

一屠肉販賣並行商臺帳

一屠獸臺帳

第二條 前條ノ臺帳ハ同帳中二種以上ニ係ルモノハ仮令ハ行商辻賣ノ如キ別座ヲ設

ケ錯雜セサル様整理スルモノトス

第三條 獸肉行商又ハ辻賣營業者ニ限り取締規則第十一條第三號雛形ノ免許鑑札ヲ
下附シ其他ハ指令ノミ臺帳ト割印ノ上下附スルモノトス

第四條 屠獸檢査願ヲ受ケタルトキハ其種類毛色仕化ノ別及年齡等台帳ニ詳記スヘシ

第五條 屠獸檢査ハ取締規則第十條ニ觸レサルヤ否ヲ檢査シ差支ナキモノハ之ヲ許シ
屠殺シタル上ハ片肉毎ニ左ノ雛形ノ檢印(人力車ニ用ユル格印)ヲ捺スヘシ
但檢査ニ際シ之ヲ許サ、ルトキハ其旨上官ニ申告シ台帳ヲ校正スルモノトス

第六條 屠獸營業者ヨリ屠殺セシ獸類ノ種類頭數ニ檢印ヲ願出タルトキハ台帳ト照
合ノ上檢印スルモノトス

第七條 臺ニ免許ヲ受ケタルモノ改正規則ニ依リ更ニ届出シムルニ及ハス但規則第
二條ニ觸ル、モノハ此限ニアラス

○本縣令第三一號 二十二年四月十八日
明治十七年三月甲第十九號諸獸屠殺並ニ賣肉取締規則左ノ通改正ス但本則第二條ニ
抵觸スル者ハ來ル十月一日ヨリ本則ニ從フヘシ

屠獸並ニ賣肉取締規則
第一條 屠獸場ヲ設置セントスルモノハ第一號書式ニ據リ略圖ヲ添ヘ(借地ナレハ
所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ) 其地主連署

第二條 屠獸場ハ左ノ各項ニ觸ル、モノハ之ヲ許サス
一 人家及國縣道神社遊園並ニ墓地ヲ距ル二町以内

二 飲用水ヲ距ル一町以内

第三條 屠獸場ニハ其入口公衆ノ見易キ場所ニ第二號雛形ノ標木ヲ建設スヘシ

第四條 屠獸場内ハ便所外見ヲ防クヘシ
第五條 屠獸場ハ切石又ハ板等ヲ以テ適宜斜傾ヲ付シ汚血等溜滯セサル様構造シ血

溜ハ覆蓋ヲ設ク可シ

第六條 營業上牛馬羊豚ハ屠獸場外ニ於テ屠殺スヘカラス

第七條 屠獸場ニ於テ其骨皮等化製セントスルモノハ左ノ各項ニ從フヘシ但屠獸場外ニ於テ化製セントスル者ハ明治二十一年九月縣令第六十三號屠獸場及獸類化製場取締規則ニ從フヘシ

一屠殺所ヲ距ル十間以上生骨ヲ積置クトキハ便宜外見ヲ防ク

二埋没セントスルトキハ深サ三尺以上

三運搬セントスルトキハ臭氣ノ發セサル様取扱事

第八條 屠殺時間ハ正午十二時限リトス

第九條 屠獸場ニ於テ牛馬羊豚ヲ屠殺セントスルモノハ其種類牝牡ノ別及年齡并ニ賣渡人ノ証明ヲ添ヘ口頭若クハ書面ヲ以テ所轄警察署分署又ハ巡查駐在所ニ届出檢査ヲ受ク可シ

第十條 病獸及妊牛馬ハ屠殺ス可カラス

第十一條 屠獸并ニ牛馬羊豚肉販賣營業(行商辻賣)ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但獸肉ヲ行商シ又ハ辻賣セントスルモノハ第三號雜形ノ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ニ願出檢印ヲ受ケ營業中ハ公衆見易キ處ニ携帶スヘシ

第十二條 第一條第十一條ノ營業者ニシテ廢業シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出其行商辻賣ハ鑑札ノ消印ヲ受クヘシ

第十三條 轉居改氏名其他異動ヲ生シタルトキハ其都度所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ但行商辻賣營業者ハ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十四條 行商辻賣爲許鑑札ハ貸與スルコトヲ許サス

第十五條 屠殺シタル獸類ハ其肉端ニ檢印ヲ受クヘシ但販賣スルトキハ其肉ノ盡ル迄之ヲ存スヘシ

第十六條 死獸肉ハ勿論腐敗肉又ハ他ノ獸肉ヲ混同シ若クハ肉類ヲ詐稱シテ販賣スヘカラス

第十七條 本則第一條第三條第四條第五條第六條第七條第九條第十條第十三條第十五條第十六條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分セラルヘシ

第一號

屠獸場設置願

一屠獸場

何郡何町字何々第何番地目(官有地第何種)反別

右ハ今般屠獸場設置仕度候間御檢査ノ上御許容被成下度圖面相添奉願候也

年月日

本籍住所身分職業

右願人 何ノ誰印 (借地ナレハ地主連署シ官有地ナレハ借地証ヲ添フ)

第二號

標木雜形

高地上五尺

方六寸

記載例

表面免許屠獸場

左側明治何年何月何日許可

右側何郡何町何番戶營業人何ノ誰
裏面何郡何町何字何々何坪

第三號

長四寸五分 厚四分 巾二寸五分

表
醫第何号
牛(牛馬)
羊(豚) 行商(辻賣)免許鑑札
住所
氏名

表面ニハ年月日ヲ記シ警察署分署ノ烙印ヲ押印ス

第八章 醫師及治療

○太政官達 明治元年十二月廿四日

近來產婆之者共賣藥ノ世話又ハ墮胎ノ取扱等致候者有之由相聞ヘ以テノ外ノ事ニ候元來產婆ハ人ノ性命ニモ相拘リ不容易職業ニ付假令衆人ノ頼ヲ受ケ無余儀次第有之候共決シテ右等ノ取扱致間敷等ニ候以來萬一右様ノ所業於有之者御取糺ノ上屹度御答可有之候間爲心得兼テ相達候事

○内務省 明治九年二月五日(各縣)

管内醫師施治ノ患者死亡スル時ハ左ノ書式ニ準シ遺漏ナク區戶長ヲ經テ管廳ヘ爲届出半ケ年宛取纏メ二月ヲ限リ當省ヘ可差出此旨相達候事 十六年乙第廿八號ヲ以テ届ヲ達ス又戶長ノ下(若クハ醫務取締)トアレハ(醫務取締)ハ十二年乙第五十六號省達ニ依リ消滅ニ付除去ス 死亡届 (料紙半紙二ツ折)

何府何國何郡何町(九年乙第百三十九號)號省達ニ依リ改正ス

病名 年號月日死

何某父母兄弟妻子

何業何職 姓

名 年齡

右ハ私施治ノ患者ニ候死死去候間此段御届申上候也

何府何大區何小區何町何番地

年號月日

醫師

姓

名

何縣令 何某殿

○内務省 明治九年四月一日(各縣)

當省本年乙第十三號ヲ以テ患者死亡届ノ儀相達候處右届書差出方順序醫師ヨリ直チニ差出候テハ數醫ノ施治ヲ受ケタル患者死亡ノ節醫師各自届出重複シ或ハ互ニ讓リ合等閑相成候儀モ可生ニ付主任ノ醫師ハ必ス届書ヲ死者ノ家人ニ付與スヘク家人ハ必ス之レヲ請求シテ該病家ヨリ(區戶長)ニ爲差出候様可取計此旨更ニ相達候事(同上長)ノ下(或ハ醫務取締)ノ五字ヲ除ク

○内務省 明治十年八月十六日(府縣)

昨明治九年當省乙第五號ヲ以醫師試驗ノ儀相達從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進ノ基礎相立候處維新以來該術ヲ以諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ醫療若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ簡條ニ照觀シ本人ノ願書及履歷書ニ管廳ノ添書ヲ付シ可申出此旨相達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノ、外ハ總テ成規ノ試驗ヲ遂ケ候儀ト可相心得事

一内務省醫視病院醫員舊醫視廳醫員

但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ

一陸軍省軍醫副及軍醫試補以上

一海軍省軍醫副以上

一文部省及舊大學東校少得業生及醫學教官下醫當直醫以上並同省直轄諸學校醫員

一皇漢醫道掛種痘館掛ハ之レ除ク

一司法省及舊彈正臺醫員

一宮内省六等侍醫以上及舊少典醫舊權大侍醫以上

一開拓使病院醫員

一府縣病院及地方公立病院當直醫以上

○第三十五號布告 十六年十月廿三日

內務省連署

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年八月第三拾九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

但此規則施行以上ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出シヘシ

願出シヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開

業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ其證ヲ審查シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫廢師業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ処分スコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ開業禁止ノ処分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 內務卿ハ醫師禁止ノ処分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解除コトアルヘシ

○內務省乙第四號 明治十七年一月二十一日 (府縣)

從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫術開業許可ノ證ヲ所持スル者ハ今般更ニ當省ニ於テ

免狀授與可致候條此旨相達候事
○本縣甲第百十一號 明治十七年八月七日

產婆規則

- 第一條 產婆營業ヲ爲サント欲スル者ハ別紙書式ニ據リ願出免許ノ証ヲ受ケ可ヘシ
(十九年五月甲第四十號ヲ以テ改正)
- 第二條 產婆ハ年齡三十年未滿又ハ墮胎ノ罪ニ據リ處刑ヲ受ケタル者ハ之ヲ許サス
- 第三條 產婆免許ノ証ヲ所持スル者ニ非ラサレハ營業スルヲ許サス
- 第四條 管内甲ノ郡役所々轄内ヨリ乙ノ郡役所々轄内へ轉籍寄留シ產婆營業セント欲スル者ハ其旨届出可シ
(十九年五月甲第四十號ヲ以テ改正)
- 第五條 他管へ轉籍寄留シ若クハ廢業又ハ死亡シタル時ハ免許ノ証ヲ返納スヘシ
(十九年五月甲第四十號ヲ以テ改正)
- 第六條 免許ノ証ヲ失却毀損シタルカ又ハ氏名ヲ改メタル時ハ其事由ヲ詳記シ更ニ下付又ハ書換ヲ願出可シ
(十九年五月甲第四十號ヲ以テ改正)
- 第七條 左ノ事項ヲ禁ス
 - 一 產婦及生兒ニ藥劑ヲ與ヘ或ハ猥リニ器械ヲ用フル等醫ニ紛ラハシキ所業ヲ爲ス
 - 二 免許ノ証ヲ貸與若クハ讓與スル
- 第八條 本則第一條第四條第五條第六條第七條ニ違犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
(廿一年三月縣令第九十五號ヲ以テ改正)

願書式

產婆免許願 (用紙半紙)

私備別紙履歷書之通産婆術修業候ニ付産婆營業致シ度候間免許ノ証御下渡被下度
此段奉願候也

宮崎縣何郡何町何番戶(寄留人ナレハ原籍府縣國郡區町村番地ヲモ併記スヘシ)
身分某母或ハ妻妾姊妹長女次女等譯

前書之通相違無之候也

何 某 印
何年何ヶ月

衛生委員 何 某 印
戶長 何 某 印

官崎縣令何某殿
履歷書式 (用紙全上)

肩書願書式ト全様記スヘシ
何

某
何年何ヶ月

- 一 墮胎ノ罪ヲ犯シ處刑ヲ受ケシト無之
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何國何郡何町住漢法内外科(或ハ産科)醫何某ニ從ヒ
産婆術修業
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何國何郡住産婆何某ニ就キ産婦幾人分娩ノ助手ス
前項ノ外實地修學ノ履歷
- 一 何々アラハ漏サス爰ニ記ス

年月日

右 何 某 印

私ニ從ヒ右履歷書之通修業候儀相違無之保証候也

何府何郡何町住寄留人ナレハ原籍ノ府縣國
何縣何郡何村住郡區町村名ヲモ併記スヘシ

醫師 何 某 印
肩書式同上

產婆 何 某 印

(右師已ニ死亡シタル時ハ保證人ヲ以テ左ノ如ク書スヘシ)
右之通相違無之候尤師何某何年月死去候ニ付私保証候也

肩書式同上

何 某 印

○本縣令第五十二号 明治廿一年八月廿五日

明治十七年八月甲第百十三號布達醫師規則左ノ通り改正ス

開業醫師取締規則

- 第一條 醫術開業免狀ヲ所持スルモノハ免許區域外ニ出テ區域外ノ患者ヲ診察治療スルヲ許サス但區域外ノ者區域内ニ來リ診察治療ヲ乞フモノハ此限ニアラス
- 第二條 診察治療又ハ變死傷若クハ死体檢案ノ囑托ヲ請ケ故ナク之ヲ拒ムヲ得ス
- 第三條 患者ヲ診察シ藥劑若クハ處方書ヲ授與スルトキハ處劑録ニ其患者ノ住所職業氏名年齢及病名處方等ヲ詳細登記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ
- 第四條 患者ニ藥劑ヲ與ヘス處方書ヲ授與スルトキハ其處方書ニ患者ノ住所氏名年齢病名並年月日及自己ノ住所氏名ヲ記シ之ニ捺印スヘシ
- 第五條 變死アリテ蘇生ノ見込アルカ又ハ至急治療ヲ要スルトキハ檢視官ノ指揮ヲ待タス速ニ治療スヘシ但本條ノ場合ニ於テ其死傷ノ狀況及治療ノ次第檢視官ノ出張ヲ待テ詳細陳述スヘシ
- 第六條 變死傷ノ聞ヘナシト雖モ檢案之際其疑アルモノハ直ニ警察官ニ密告スヘシ
- 第七條 治療患者死亡シタルトキハ第一號書式ニ據リ死亡届ヲ其家族又ハ親戚隣佑

等ニ種興スヘシ

第八條 治療ヲ受ケス死スル者アリテ之カ死體ヲ檢案シタルトキハ第二號書式ニ據リ前條ノ手續ヲナスヘシ

第九條 六種傳染病患者ヲ診察シタルトキハ明治十三年七月第三十四號布告ニ基キ直チニ警察署又ハ分署巡查出張所若クハ戸長ニ通知シ猶第三號書式ニ依リ三日以内ニ郡役所ヲ經由シテ届出ヘシ但患者全治死亡シタルトキハ第四號書式ニ據リ本條ノ手續ヲナスヘシ

第十條 麻疹患者並ニ脚氣患者ヲ診察シタルトキハ發病及全治死亡ノ月日族籍氏名職業(無職ナレハ戸主ノ業ヲ記)年齢等ヲ詳記シ郡役所ヲ經由シテ届出ヘシ

第十一條 中毒又ハ藥物ノ誤用等ニ據リ死ヲ致シタル者ヲ檢案シ又ハ死ニ至ラサルモ衛生上等閑ニ付スヘカヲサル病者ヲ診斷シタルトキハ直ニ警察官ニ通報シ第五號書式ニ據リ届出ヘシ但毒物ノ成分判明セサルモノハ現品ヲ添付スヘシ

第十二條 死体ヲ解剖セントスルモノハ其解剖スヘキ部分及施行ノ場所並日時ヲ詳記シ死者ノ生前素願書及遺族ノ連署ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ届出許可ヲ受クヘシ

第十三條 解剖ハ死后二十四時間ヲ經過スルニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 解剖ハ係官東醫學徒及死者關係ノ外參觀セシムルコトヲ得ス

第十五條 解剖終ルトキハ臟腑其他ノ器官ハ渾テ復納シ切開部ノ皮膚ハ縫合シテ舊形ニ復セシメ其病狀及解剖ノ實況ヲ詳記シ縣廳ニ届出ヘシ

第十六條 開業醫ニシテ出診所ヲ設ケタルトキハ其位地及出張日等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ但不在中治療ヲ專任シタル醫師アルトキハ其氏名ヲ届出ヘシ

第十七條 甲ノ郡役所々轄内ヨリ乙郡役所々轄内ニ轉籍寄留開業セント欲スルモノハ其旨縣廳ニ届出ヘシ

第十八條 新ニ開業スルモノ及他管ヨリ歸縣若クハ轉籍寄留開業セント欲スルモノハ縣廳ニ届出ヘシ但他管ヨリ歸縣又ハ轉籍寄留シテ開業セントスルモノハ免狀寫并ニ履歷書ヲ添ヘ届出ヘシ

第十九條 廢業又ハ死亡シタルトキハ本人若クハ遺族ノ書面ヲ添ヘ五日以内ニ免狀返納スヘシ

第二十條 病者ノ請求タリト雖モ診察シタル患者ニアラサレハ藥劑若クハ診斷書ヲ授與スカラス

第二十一條 醫術開業免狀ヲ有セサル門弟ノモノハ臨時ノ代診ナサシムルハ妨ナシト雖モ治療ヲ專任スヘカラス

第二十二條 藥學ヲ辨セサルモノハ藥劑ヲ專任スヘカラス

第二十三條 醫術開業免狀ヲ貸與又ハ讓與スヘカラス

第二十四條 本則第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ當シ又ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 本則第九條但書及第十條第十一條第十二條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 本則第二條第三條第四條第七條第八條第十一條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十三條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第一號書式

死亡届

病名 何年何月何日午前
(後)何時何分死亡

右ハ私施治ノ患者ニ候處死亡候間此段及御届候也

年月日 宮崎縣知事何某殿

第二號書式 死后檢案届

死後經過ノ時間 肩書式全上

右死後檢案候処何病何何ニ依テ死去候儀ト認定候也

年月日 肩書式全上

宮崎縣知事何某殿 醫師 何 某 印

第三號書式 何病患届

肩書式全上 何 某

何年何月生

宮崎縣何郡何町何村(寄留人ナレハ原籍ノ國郡町村名ヲモ併記スヘシ)

何某父母兄弟妻子等ノ譯

職業 無職ナレハ戸主ノ職業ヲ記シ本人無職業ト記スヘシ

一病名(コレラ)ハ鼻假(痘瘡)ハ種痘ノ濟否若シ種痘セシ者ハ初再三種ノ年月日及感不感ノ譯ヲ記スヘシ
 一現症 診察シタルトキノ症候ヲ記スヘシ
 一原因 特發力感染力又ハ何々ニヨリ特(感染)ノ理由ヲ記スヘシ
 一發病(後) 何年何月何日午前何時ト記スヘシ
 右何月何日午 前何時診察候處前書ノ通相違無之此段及御届候也
 肩書式全上

年月日 醫師 何 某 印
 宮崎縣知事何某殿
 第四號書式

何病患者(全治)死亡届
 肩書式全上
 何 某

右ハ何年何月何日診察候旨(醫師何某ヨリ)御届申上候處何月何日全治死亡候ニ付此段私ヨリ及御届候也
 肩書式全上

年月日 醫師 某 印
 宮崎縣知事何某殿
 第五號書式
 中毒患者御届
 肩書式全上

職 何 某
 何年何月生

- 一 中毒(藥物誤用)ノ年月日
- 一 品種并ニ用量 何々
- 一 症候 何々
- 一 經過 何々
- 一 療法 何々
- 一 醫局月日 何々
- 右及御届候也

年月日 肩書式全上 醫師 何 某 印
 宮崎縣知事何某殿

○本縣令第五十三号 明治二十一年八月廿五日
 醫會準則

- 第一條 醫師ハ一郡ヲ以テ區畫(宮崎北那珂)トシ醫會ヲ設クヘシ但醫會ハ縣内便宜ノ地ニ總會ヲ開キ共同一致ヲ圖ルヘシ
- 第二條 醫會ノ名稱ハ何郡醫會ト稱スヘシ
- 第三條 醫會ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ
 - 一 醫風ヲ改良スルコト
 - 一 醫術ヲ研究シ其進歩ヲ圖ルコト
 - 一 風土病傳染病ノ原因ヲ探究スルコト
 - 一 傳染病ノ豫防及治療ヲ講究スルコト

一衛生上ノ利害得失ヲ講究スルコト

第四條 區畫内居住ノ開業醫師ハ總テ醫會ニ洩ル、ヲ得ス

第五條 醫會ハ一年二回以上開會スルモノトス

第六條 各會々長副會長及幹事若干名ヲ互選シ本會ノ事務ヲ整理スルモノトス

第七條 會長副會長幹事及組合醫師ノ氏名會場開會ノ期日ハ郡役所ヲ經由シテ縣廳ニ届出ヘシ

第八條 各會規約ヲ議定シ郡役所ヲ經由シテ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ但變更スルトキハ本文ノ手續ヲナスヘシ

第九條 醫會決議ノ條件ハ其郡度郡役所ヲ經由シテ縣廳ニ届出ヘシ

第十條 知事又ハ郡長ヨリ諮問ヲ受クルコトアルトキハ本會審議ノ上開申スヘシ

第十一條 開會當日主務吏員ヲシテ臨席セシムルコトアルヘシ

第十二條 本會ニ係ル費用ハ會員ニ於テ共同支辨スヘシ

第十三條 前條々ノ外醫會ニ於テ必要トナス事項適宜其規約ヲ定ムルヲ得ルト雖モ必ス第八條ノ手續ヲナスモノトス

○法律第七十六號 明治二十三年八月二十七日

獸醫免許規則

第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免許狀ヲ受ケタル者ニ限ル

第二條 獸醫免許狀ヲ受ケタルコトヲ得ル者左ノ如シ

一獸醫免許試験ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者

一官立府立縣立獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者

一公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一外國ニ於テ官立府立縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學校ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者

第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免許狀ヲ受ケント欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ關スヘシ

第四條 獸醫免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトハ其遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其免許狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 獸醫免許狀ヲ受ケタル者ハ其ノ免許狀下付ノトキ手数料トシテ金一円ヲ納ムヘシ

第七條 獸醫免許狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免許狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第八條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ハ之ヲ

禁止スルコトアルヘシ

禁止ノ処分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免許狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條 第八條ノ禁止ノ処分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シ

ノ禁止ヲ解ケコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免許狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條 免許狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五円以上五拾円以下ノ罰金ニ處

第十一條 獸醫營業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ処ス
第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓
以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ処ス
第十三條 獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海
商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ
獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

具

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス
第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其他此ノ法律ニ抵觸スル規定
ハ總テ廢止ス

○本 縣 甲 第八十号 明治十八年六月

鐵灸 業取締規則

第一條 鐵灸術ハ免許證札ヲ所持スルモノニ非レハ營業ヲ許サス
第二條 (明治十九年五月甲第四十号ヲ以テ) 鐵灸術ヲ開業セント欲スルモノハ其修業
履歷ニ師家ノ授業證書ヲ添ヘ免許證札ヲ願受ヘシ
第三條 營業者 施 許ルサス
第四條 營業者ハ患者ハ藥劑ヲ授與シ又ハ方劑ヲ指示スルヲ許サス
第五條 營業者ハ醫師治療中ノ患者ニ對シテハ主治醫ノ承認ヲ受クルニ非サルハ施
術スルヲ許サス
第六條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス免許證札ヲ携帯スヘシ

第七條 免許證札ハ貸借買賣又ハ讓與スルヲ許サス

第八條 鐵灸術營業者ハ左ノ雛形ニ從ヒ標札ヲ門戸ニ掲グヘシ

第九條 免許證札ヲ遺失毀損若クハ氏名ヲ變換シタルルハ其事由ヲ詳記シ免許證札
ノ下付又ハ書替願出ヘシ但廢業又ハ死亡ノ節ハ三日以内ニ免許證札ヲ返納スヘシ

第十條 營業者管内甲ノ郡役所所轄地ヨリ乙ノ郡役所々轄地ヘ轉籍寄留開業スルト
キハ免許證札ノ書替願出ヘシ但一郡役所々轄内甲ノ町村ヨリ乙ノ町村ヘ轉籍寄留
開業スルモノモ本文ニ準ス

第十一條 管内營業者他府縣ヘ轉籍寄留開業セントスルトキハ其國郡區町村名ヲ詳
記シ免許證札返納添書願出ヘシ

第十二條 他府縣ニ於テ從來開業ノ者管内ニ轉籍寄留セントスルトキハ其府縣ノ添
書ヲ付シ免許證札願受クヘシ但管内寄留ノ者原籍府縣ヘ復歸ノトキハ免許證札ヲ
返納スヘシ

第十三條 管内營業者他府縣ヘ寄留再ヒ原籍ヘ復歸シ開業セントスルトキハ免許證
札願受クヘシ

明治廿年十二月縣令第九十四號ヲ以テ第十四條ヲ改正シ第十五條第十六條ヲ追加ス

第十四條 第一條第三條第四條第五條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ一日
以上三日以内ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條 第七條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料
ニ處ス

第十六條 第六條第八條ニ違背シタル者ハ五錢以上拾錢以下ノ科料ニ處ス

第八條雛形

鐵灸術營業

許灸 何郡何町

何 某

○内務第十號 明治十八年八月二十五日(府縣)
鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者並ニ新規開業セントスルモノハ自今出願セシメ其
修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不若其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達
候事

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス
○内務第七號 明治十八年三月廿二日(府縣)

入齒齧抜口中療治接骨等營業之者ハ明治十六年十月第三十四號布達ニ依リ醫術開業
試験ヲ經ルニ非サルハ新規開業不相成候條從來ノ營業者ハ此際各地方國ニ於テ鑑札
ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本文ノ手續ヲ爲スニ及ハス
○本甲第七十九號 明治十八年六月

入齒齧抜口中療治接骨營業取締規則

第一條 從來入齒齧抜口中療治接骨營業者ハ以下各條ヲ遵守スヘシ

第二條 入齒齧抜口中療治接骨ハ免許鑑札所持ズル者ニ非レハ營業スルヲ許サス

第三條 營業者ハ強テ人ヲ勸メ施療スルヲ許サス

第四條 營業者ハ内服劑ヲ授與若クハ藥方ヲ指示スルヲ許サス

第五條 接骨營業者ハ骨傷脫臼等ノ病ト雖モ其症内部ニ關スルカ又ハ重症危篤ノ患
者ト認ムルトキハ必ス醫師ノ立命ヲ請ヒ然ル後施療スヘシ但齒齧抜口中療治營業者

ト雖モ施療ノ際危險ノ恐レアルトキハ必ス免許鑑札ヲ携帶スヘシ

第六條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス免許鑑札ヲ携帶スヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借買賣又ハ讓與スルヲ許サス

第八條 他管ニ於テ營業免許ノ者本縣内ヲ通行營業スルトキハ免許鑑札寫相添其地

所轄ノ警察署へ届出タル上施療スヘシ

第九條 (十九年五月甲第四十號ヲ)以下皆同シ免許鑑札ヲ遺失毀損若クハ氏名ヲ變
換シタルトキハ其事由ヲ詳記シ免許鑑札ノ下附又ハ書替願出ヘシ但廢業又ハ死亡

ノ節ハ三日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第十條 營業者ハ左記ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ門戸ニ掲グヘシ

第十一條 營業者管内甲ノ郡役所々轄地ヨリ乙ノ郡役所々轄地へ轉籍寄留開業スル
トキハ免許鑑札ノ書替願出ヘシ但一郡役所々轄地内甲ノ町村ヨリ乙町村へ轉籍寄留

開業スル者モ本文ニ準ス

第十二條 管内營業者他府縣へ轉籍寄留開業セントスルトキハ其國郡區町村名ヲ詳
記シ免許鑑札返納添書願出ヘシ

第十三條 他府縣ニ於テ從來開業ノ者ニシテ管内へ轉籍寄留開業セントスルトキハ
其府縣ノ添書ヲ附シ免許鑑札領受タヘシ但管内寄留ノモノ原籍府縣へ復歸ノトキ

ハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第十四條 管内營業者他府縣へ寄留再ヒ原籍へ復歸シ開業セントスルトキハ免許鑑
札願受ヘシ

明治廿年十二月縣令第九十四號ヲ以テ第十五條ヲ改正シ第十六條第十七條ヲ追加ス

第十五條 第二條第三條第四條第五條第九條第十一條第十二條ニ違背シタル者ハ一
日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十六條 第十七條第八條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上壹圓以
下ノ科料ニ處ス

第十七條 第六條第十條ニ違背シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條雛形

免 何々營業
許 何郡何町 何 某

○第五編 風俗

○第一章 富籤及乞丐浮浪

○布告 明治元年十二月二十三日

富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ在之處近年諸國ニ於テ金融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ墮リ往々之カ爲メ家産者ヲ破候モ不少哉ニ相聞ヘ以テノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣意ニ相戻候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事
富籤賣買ノ牙保幫助者及富籤購買處分法(明治十五年五月廿四日布告第廿五号)

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左之通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁銅ニ處シ五円以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトテ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁銅ニ処シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタルモノハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ処ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル
右奉救旨布告候事

第二章 祭典葬儀

○教部第十七號達 五年九月十四日(府縣)

神官葬儀ニ關係之儀先般第百九十三號公布相成候ニ付テハ神葬地之儀神官ヨリ願出候ハ、適宜相應之地所相撰可伺出候事

但寺院内へ神葬致度者ハ示談ノ上聊無差支様管内寺院へ兼テ可相達事
○教部第二十六號達 明治六年七月

神佛祭禮開扉等ノ節兼テ信仰ノ者ハ夫々敬禮ヲ盡シ參拜可致等ノ處從來ノ弊風ニ泥ミ打扮或ハ男女姿粧ヲ易ヘ候等ノ儀有之趣醜弊ヲ極メ候ノミナラス却テ神佛ヲ褻瀆シ以ノ外ノ儀ニ付以來右様ノ儀無之尊崇本意ヲ體シ候様可致事
○教部第二十九號達 明治六年九月

諸神社祭禮神輿渡御ノ節往々祭儀ニ托シ粗暴ノ所業有之或ハ途中ノ人家ニ觸レ或ハ往來ノ妨害ヲ爲ス等許多ノ弊害不少候趣相聞不都合ノ至リニ候條向後取締方精々注意シ相暴ノ所業無之様可致此旨布達候事

○内務部第五二二號 明治十七年十月廿五日

今般教導職被廢候ニ付テハ明治五年六月第百九十二號布告中葬儀ハ神官僧侶ノ内ニ依頼スヘキ旨記載アルモ該布告タル違式違令ノ廢止セラレタル以上ハ全ク制願ヲ備ヘサルノ法律ナルヲ以テ自葬ノ禁ハ自然解除ニ屬シタルモノト内定相成タル趣ニ付爲念及内報置候也

教導職ノ廢止ニ依リ自葬ノ禁自ラ解除候ヤ否ヤノ儀ニ付伺指令

今般第十九號布達ヲ以テ教導職被廢候ニ付テハ明治五年六月第九十二號布告中釋儀ハ神官僧侶ノ内ニ依頼スヘキ旨記載有之候得共該布告タル違式違令ノ廢止セラレタル以上ハ全ク裁制ヲ備ヘサルノ法律ニ有之勞以テ自葬ノ禁ハ自然解除ニ届シ候儀ト相心得可然乎此段相伺候也

明治十七年九月二十七日

大政大臣宛

伺之通

明治十七年九月

第二章 演劇並遊藝

○本縣縣令第二十二號 二十二年四月六日

明治十七年三月甲第三十號布達諸興行取締規則ヲ廢止シ更ニ演藝取締規則左ノ通之ヲ定ム但既成ノ定設演藝場ニシテ本則第五條第一項但書ニ觸ル、モノハ明治二十三年一月一日ヨリ本則ニ從フヘシ

演藝取締規則

第一條 演藝トハ能狂言相撲芝居音曲手踊軍談講釋落語祭文輕業手品曲馬力持足藝操人形等ノ技藝ヲ演シ公衆ニ觀聽ゼシムルモノナ云フ但生人形觀眼鏡禽獸魚介等ノ遊觀物興行ハ總テ本則ヲ適用ス

第二條 演藝場ヲ新築又ハ改造セントスルトキハ第一號書式ニヨリ構造ノ圖面並ニ近接居住者ノ承諾證(借地ナレハ地主連署)ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出其飯設ニ係ルモノハ所轄警察署分署ニ出願シ許可ヲ受クヘシ但六ヶ月間構造ニ着手サルモノハ許可ノ効ヲ失フモノトス

第三條 前條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ
第四條 定設演藝場ヲ廢止シ又賣買讓與双方シタルルハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第五條 演藝場ハ定設ト飯設ト間チハス其建築構造ハ總テ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
一 柱礎梁等堅牢ニシテ壞倒入恐レナキ事但定設ノ分ハ其家根ハ不燃質ノ物ヲ用ユルモノトス

二 機敷ハ適宜區畫ヲ設ケ壁崩ノ憂ナキ機盤固ニテ四尺ヨリ狭カラサル階梯ニケ所ヲ設ケル事但談話ハ此限ニアラス
三 非常變災ノ節觀客ノ退去ヲ便ナラシムル爲メ三ヶ所以上ノ大出入口ヲ設ケル事
四 空氣ノ流通ヲ充分ナラシムル爲メ各所ニ窓牖ヲ設ケル事
五 樂屋ハ他ヨリ見透サル、機構造スル事
六 便所ハ消滅ニシテ臭氣ノ客席ニ達セサル場所ニシテ汚物ノ流散セサル機設ケル事

七 照燈及其器具等ハ危香ナカラシムル事

第六條 演藝場ハ總テ公私立學校及病院ヲ距ル百間以外ノ地ニ限ルハシ

第七條 演藝場内便宜ノ處ニ警察官吏ノ出張席ヲ設ケヘシ

第八條 演藝興行ヲナサントスルモノハ第二號書式ニ據リ三日以前邊題及演藝者ノ族籍住所氏名年齢等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但興行中藝ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第九條 興行ハ日出ヨリ夜間十二時間限リトス

第十條 世安ヲ害シ俗ヲ亂シ其他猥褻ノ所爲ヲ演スヘカラス不具者又ハ腐敗物其他人造物ヲ天造物ト詐稱シ觀セ物ニ供ス可カラス

第十一條 興行中左ノ各項ヲ爲スヲ許サス
 一 觀客ヲ樂屋ニ入レ又ハ藝人ヲ客席ニ出ス事
 二 木戸錢料又ハ見料等定設ノ外圖ヲ賣リ其他何等ノ名義ニ拘ハラズ觀客ニ對シ出金ヲ促ス事
 三 夜中客席ヲ暗黒ニスルヲ
 第十二條 木戸錢席料等ハ總テ出入口公衆ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ
 第十三條 一時通行視眼鏡其他神佛祭典等ニ付舞臺小屋掛ヲナサス興行スルモノハ所轄警察署又ハ分署若クハ巡查駐在所ヘ口頭又ハ書面ヲ以テ届出第九條第十條第十一條ヲ遵守スヘシ
 第十四條 本則第二條第三條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十八條第五項ニ據リ處分セラルヘシ

第一條書式

演藝場建設類

一 建設場 何郡何町字何々番地
 一 演藝場種別 定 飯劇場(人寄席)
 一 地主 何府何國何郡何町何番地身分職業氏名
 一 建設人 同
 右ハ今般建設仕度候間別紙圖面並近接居住者ノ承諾証相添此段奉願候也
 年月日 右
 建設人 氏名印
 (借地ナレハ地主)
 地主 氏名印

宮崎縣知事宛

第二號書式

何々興行届

一 演藝場 何郡何町何番地(定)設劇場(一人寄席)又ハ(何ノ誰方)
 一 興行日數 何月何日ヨリ何日迄何日間
 一 木戸錢 何錢又ハ大人何錢又ハ無シ
 一 棧敷料 一人何錢又ハ一坪何錢又ハ無シ
 一 ウツラ 同
 一 土間 同
 一 客席坪數棧敷何坪ウツラ何坪土間何坪
 右興行仕度別紙藝人名並ニ藝題書相添此段御届仕候也
 本籍住所身分職業
 年月日 右願人 氏名印

演藝場主 氏名印

何警察署長又ハ何分署長官氏名宛
 ○本部警訓第七四號 二十二年十二月二日(警部長ヨリ警察署警察分署ヘ)
 明治二十二年四月縣令第二十二號演藝取締規程第十條中風俗ヲ亂シトアルニハ禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷截シ又ハ之ヲ噬嚼シ其他殘酷ノ所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スル者ヲモ包含候義ト心得ラルヘシ
 (參照)

第十條世安ナ害シ風俗ヲ亂シ其他猥褻ノ所爲ヲ演ス可ラス不具者又ハ腐敗物其他人造物ト詐稱シ觀物ニ供ス可カラス

○本警訓第七五號 廿二年十二月七日(警部長ヨリ警察) 署警察分署へ
本年四月縣令第二十二號ヲ以テ演藝取締規則改正相成候處通常人民カ村芝居等届出ル場合ニ於テ風俗上弊害アルト認ムルモノハ從前之通認可セザル主旨ニ候條得其意適應ノ措置セラルヘシ
(參照)

坤第八三號十九年五月一日今般甲第三拾五号布達ヲ以テ諸興行取締規則第十四條ヲ削除シタル原旨ハ從前農民ニ於テ手踊ト唱ヘ演劇興行ヲナスヲ廢止シ風俗及隨農ヲ矯正スルノ主旨ニ有之然ルニ人民中猶舊來ノ弊習ヲ脱セス宿好ノ然ラシムル處ヨリ右等ノ興行ヲ企ントテ一時俳優鑑札ヲ申受ントスル者アルモ期シ難シ以テ專業トスル者ハ格別一時手踊興行ノ爲メ右鑑札ヲ申受クル者ハ許可不致様注意スヘシ最モ前頭ノ主旨ハ專ラ農民ノ遊部ヲ防歇スルノ儀ニ付遊藝人ノ類(藝妓ノ一時手踊ヲナス爲メ鑑札ヲ申受クルハ別異ニ付浪同セサル様見解スヘシ)

○本警訓第七号 二十三年三月十八日(警部長ヨリ) 各署分署へ
今般一時俳優鑑札下付ノ件ニ付議曾第四十四号ヲ以テ別紙ノ通第一部長ヨリ各郡長ヘ文通相成候得共元來村芝居ヲ興行セントスルニハ前以テ數日間演習ヲナス事ニテ一朝ニ興行難相成者ニ付右演習等ヲ爲ス聞アラハ説諭ヲ加ヘ之ヲ未然ニ防止候様注意セラルヘシ
議會第四〇四号 二十三年三月十七日

縣下人民ニシテ一時俳優鑑札下附出願スルモノ取扱方ニ付テハ明治十九年五月坤第八三号ヲ以テ訓令及置候處近來一時演劇興行ヲ爲サン爲メ或ハ他郡ニ寄留シ鑑札下付方出願者有之節ハ其身元等篤ト調査ヲ遂ケ之ヲ許否シ一層該訓令ノ主意ヲ貫徹シ弊害ヲ不生様御注意相成度此段申進候也

○本警指第二五號 二十三年三月二十日(警部長ヨリ延岡署長へ)
本月十三日甲第六號ヲ以テ通常人民ニ於テ俳優鑑札ヲ受ケ演劇興行届出タル場合河扱方何ノ趣本月十八日明警訓第七號訓示ノ主意ニ依リ豫メ防止シ萬一他府縣等ニ寄留シ該鑑札ヲ受ケ届出タル節ハ許可スヘシ
甲第六號 二十三年三月十三日 長水間警部ヨリ警部長へ宛

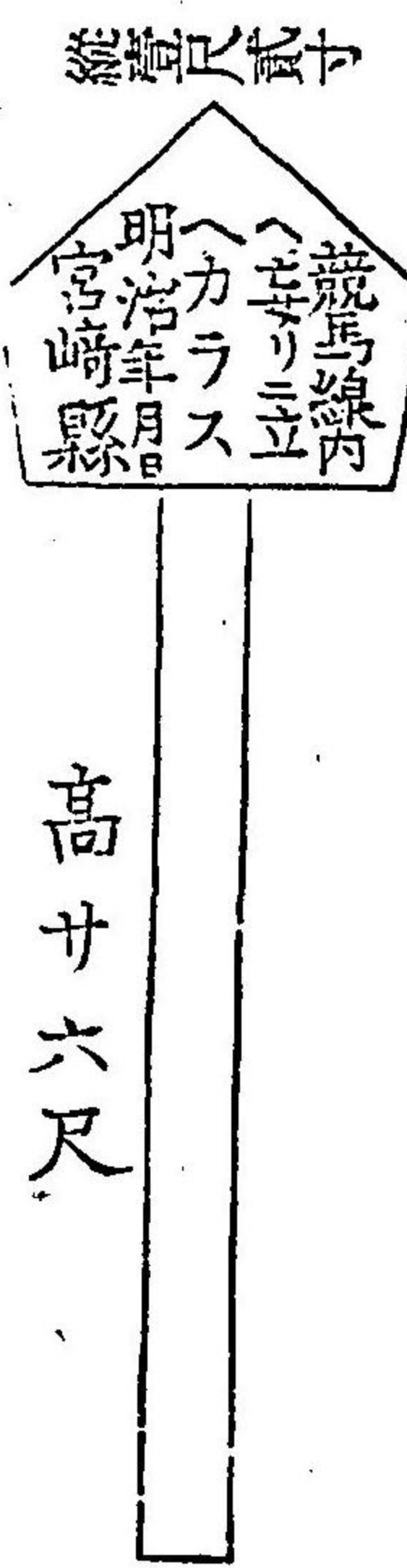
本月十五日警訓第二號ヲ以テ當東日杵郡長ノ内申ニ依リ御訓令相成候ニ付郡長ニ其赴キヲ談シタル処郡長ニ於テハ先キニ知事ニ對シ内申致タル通りノ方法御設定無之限リハ警部長ヨリ警察ニ向テノ訓令ニテハ弊害ヲ除却スルノ考按無之トノ一ニ有之然ルニ當署ニ於テハ注意ヲ要スト雖モ必竟其計畫ノ如何ヲ知ルニ止マリ飽マテ拒絕スルノカナキハ敢テ辨テ俟サルナリ故ニ他府縣或ハ他郡ニ於テ鑑札ヲ受ケ之レヲ以テ興行届出ルニ於テハ認可スル外之レヲ拒ムノ考按無之如何処分致シ可然哉殊ニ警訓第二号ノ御訓令ニテハ郡長ニ打合スルモ更ニ見込無之赴キニ付何分御指揮ヲ仰キ候也

○本縣令第八十五號 (二十年十一月)
競馬興行ヲ爲サントスルトキハ其主幹者ヨリ場所ヲ指定シ二日前ニ所轄警察署分署ヘ届出ヘシ若シ違フ者ハ貳拾錢以上壹圓二拾五錢以下ノ科料ニ處ス但本令ハ明治二十一年一月一日ヨリ施行ス
○本縣訓令第九十八號 廿年十一月二十四日

競馬興行取締手續

第一條 競馬興行ヲ届出タルトキ左ノ雛形ノ標札ヲ貸與ヘ競馬場最モ樞要ノ箇所ヘ二箇以上ヲ建テシムヘシ但該標札ハ興行ヲ終リタル翌日返納セシムヘシ
第二條 競馬場標札内ヘハ該關係者ノ外妄リニ立入ラシムヘカラス但關係者ヘハ一

目判明ナル徽章(紅白紫黄色ノ布片)一様ノ半纏ヲ用ユルノ類ヲ着ケシムヘシ
第三條 競馬ノ日時ハ日出ヨリ日没一時間前ニ限ル
雞形 横一尺五寸



第四章 藝娼妓貸座敷

○布告第五十五号 明治五年十月二十五日

各港在留ノ支那人共我弱民ノ幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去ル庚午八月中相違候得共未
タ右様ノ所業致候者モ在之哉ノ趣キ畢竟内國人ヨリ賣渡候故支那人ニ於テモ買取本
國へ連行販賣スルニ至候次第ニテ御國禁ヲ犯シ不容易儀ニ付向右等不心得ノ者在
ハ嚴重刑置ニ可及候間地方官ニ於テ管内取締厚ク可加教育候事

○司法省布達第廿二號 明治五年十月九日

本月二日大政官第二百九十五號ニテ被仰出候次第ニ付左ノ件々可心得事

一人身ヲ賣買スルハ元來ノ制禁ノ處年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同様ノ所
業ニ至ルニ付娼妓藝妓等雇入ノ資本金ハ賍金ト看做ス此故ニ古ヨリ苦情ヲ唱フル
者ハ取上ノ其金ノ全額ヲ可取揚事
一同上ノ娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失フ者ニテ牛馬ニ異ナラス人ヨリ牛馬ニ物ノ返辨
ヲ求ムルノ理ナシ故ニ從來同上ノ娼妓藝妓へ借入所ノ金銀并ニ賣掛滞金等ハ一切
債ルヘカテサレ事

但本月二日以来ノ分ハ此限ニアラス

一人ノ子女ヲ金談上ヨリ養女ノ名目ニ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲナサシムルモノハ其實
際上則チ人身賣買ニ付從前今后可及嚴重處置事

○布告第二百九十五号 明治五年十月二日

一人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ
有マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公住爲致其實賣
買同様ノ所業ニ至リ以ノ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事
二農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公爲致候儀ハ勝手ニ候得共年限滿七年ヲ過グ可カ
ラサル事

但雙方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルヘキ事

一平常ノ奉公人ハ一ヶ年宛タルヘシ尤モ奉公取續者ハ證文可改事

一娼妓藝妓等年季奉公人一切解放可致右ニ付テノ貸借訴訟總テ不取上候事
右之通被相定候迄度可相守ノ事

○布告第百二十八号 明治八年八月十四日

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ買買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ候ハ勿論ニ候處地方
ニヨリ間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事

但期限ヲ定メ工作使役等ノ勞力ヲ以テ負債ヲ償フハ此限ニアラス

○縣令第二五號 二十二年四月八日

明治十七年九月甲第三十三號藝妓取締規則左ノ通改正ス但從前ノ免許者ニシテ第二
條ニ掲グル契約ヲ爲シタルモノハ更ニ届出ヘシ

藝妓取締規則

第一條 藝妓營業ヲナサントスルモノハ別紙書式ニ據リ父又ハ母(父母ナケレハ最
近ノ親族親族ナ

ケレハ保証人) 及同居若クハ寄留者ナレハ其家主連署ノ上所轄警察署又ハ分署ニ
二名ヲ要ス 願出テ許免鑑札ヲ受クヘシ但出願ノ際ハ本人出頭スルモノトス

第二條 藝妓タラントスルモノハ同居又ハ寄留家主ト契約シタル條件ハ總テ其寫ヲ
添へ出願ノ際所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ但變更セントスル時亦同シ

第三條 藝妓ハ鑑札ノ水火盜難遺失毀損等ニ罹リ其他異同ヲ生シタルトキハ其事由
ヲ認メ(同居若シクハ寄留者) 所轄警察署又ハ分署ニ願出鑑札ノ書換及ハ再渡ヲ
請フヘシ但同居若クハ寄留者ニシテ轉居セントスルトキ双方家主連署スヘシ

第四條 藝妓ヲ廢業セントスルモノハ同居若クハ寄留家主連署ノ上所轄警察署又ハ
分署ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第五條 藝妓ハ宿屋並ニ雇人請宿ニ同居又ハ寄留スルヲ許サス

第六條 藝妓ハ客ノ招キニ應シタル處ニ宿泊シ又ハ客ヲ自宅ニ宿泊セシムヘカラス

第七條 藝妓ハ營業中免許鑑札ヲ携帶スヘシ

第八條 藝妓營業時間ハ日出ヨリ夜間十二時限リトス

第九條 免許鑑札ハ貸與スルヲ許サス

第十條 本則第一條第二條但書及第三條第六條第七條第八條ニ違背シタルモノハ一
日以上三日以下ノ拘留ニ処シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ処ス

藝妓營業願書式 (用紙半紙)

藝妓營業願
何府何國何郡何町何番(同居)平民何某長(次)女又ハ姉妹
(寄留者) 何縣何國何郡何村何番何町何番何身分職業何某方寄留
(ナレハ) 當時宮崎縣何郡何村何番何身分職業何某方寄留
何年何月生當何年何ヶ月
藝名何々

私儀何々ノ事情在之藝妓營業仕度候間免許鑑札御下附被成下度此段相願候也
年月日 右願人 何 誰 印

父又ハ母(父母ナケレハ) 何 誰 印
何(親族保證人) 誰 誰

同居又ハ寄留家主 何 誰

何警察署長又ハ分署長宛
○本警規第八號 二十二年四月十三日(警察署
全分署)
藝妓取扱手續

第一條 警察署分署ニハ藝妓臺帳ヲ備置キ該營業願ヲ受ケタルトキハ本人ニ就キ其
事情ヲ取糺シ差支ナキモノハ其族籍住所身分氏名年齢藝名並ニ父母或ハ親族又ハ
保證人ノ氏名等台帳ニ記入シ左ノ雛形ノ免許鑑札ト割印ノ上下付スルモノトス

用紙厚紙(鳥ノ子紙ノ類) 長三寸巾二寸

面表
免許鑑札
族籍住所身分
何ノ誰
何年何月生
當何年何ヶ月
面裏
明治何年何月何日
「署印

第二條 免許鑑札ノ書換又ハ廢業届ヲ受ケタルトキハ其都度臺帳ヲ校正スヘシ

第三條 取締規則第二條ニ依リ契約證ヲ差出シタルトキハ一應調査ノ上差支ノ廉ア
ルモノハ之ヲ訂正セシムルカ又ハ願書ト共ニ返戻スヘシ但變更ニ係ルトキ亦同シ

第四條 従前營業免許ノ者ハ改正取締規則ニ據リ更ニ免許鑑札書換下付スルニ及ハ

ス
○本縣令第八十一號 明治二十一年
十二月廿六日
貸座敷並娼妓取締規則

第一章 貸座敷

第一條 貸座敷營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ニ據リ元締ノ連印及戸長ノ與
書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受ケヘシ

第二條 未丁年ノ者ハ貸座敷營業ヲ爲ス_レヲ許サス但後見人ヲ立ツルモノハ本文ノ
限ニアラス

第三條 貸座敷營業ハ貸座敷免許地ニ限ルヘシ

第四條 貸座敷ヲ廢業セントスルモノハ第一條ノ手續ニ從ヒ届出テ免許鑑札ヲ返納
スヘシ

第五條 廿二年十二月縣令
第八十號ニテ削ル

第六條 貸座敷營業者ハ鑑札面ニ異動ヲ生シ其他水火盜難毀損遺失等ニ罹リタル時
ハ其事由ヲ認メ第一條ノ手續ニ從ヒ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ願出標燈ノ書換ヲ爲ス
ヘシ但他ノ免許地ニ移轉スル場合ハ一旦廢業ノ上更ニ免許ヲ受ケヘシ

第七條 貸座敷營業者ハ第三號書式ニ據リ遊客人名簿二冊ヲ製シ所轄警察署分署ノ
檢印ヲ受ケ遊客ノ氏名人相違拂金高等ヲ詳記シ翌朝交互所轄警察署分署又ハ巡查
駐在所ニ届出檢査ヲ受ケヘシ

第八條 貸座敷營業者ハ遊客ノ内舉動怪シキモノト認メ又ハ娼妓ヨリ告知ヲ受ケタ
ル時ハ速ニ警察官吏ニ密告スヘシ

第九條 貸座敷營業者ハ娼妓ニ店ヲ張ラセ又ハ強テ遊客ヲ誘引スルハ勿論客ノ求サ

ル酒肴等ヲ出スノカラス

第十條 貸座敷營業者ハ遊興費トシテ衣類其他ノ物品ヲ差押ユヘカラス但所轄警察
署分署ノ認可ヲ得受授スルモノハ此限ニアラス

第十一條 貸座敷營業者ハ娼妓免許鑑札ヲ所持セサル婦女ニ座敷ヲ貸シ娼妓ニ紛ハ
シキ所業ヲ爲サシムヘカラス

第十二條 貸座敷營業者ハ娼妓廢業又ハ移轉スルニ際シ故ナク之ヲ拒ミ若クハ種々
ノ名義ヲ付シ出金ヲ爲サシメ其他苛酷ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第十三條 貸座敷營業者ハ娼妓失踪逃亡シタル時ハ速ニ其旨所轄警察署分署へ届出
ヘシ

第十四條 貸座敷營業者ハ娼妓ヲシテ定期ノ徵毒檢査ヲ受ケシムルハ勿論自ラ徵毒
ノ兆候アリト申出ル時ハ速ニ檢査ヲ受ケシムヘシ

第二章 娼妓

第十六條 娼妓タラントスルモノハ第四號書式ニ據リ其事情ヲ認メ父又ハ母(父母
レハ最近ノ親族親族ナケ)及同居スヘキ家主并ニ身元引受人元締ノ連印ヲ得現住
地戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受ケヘシ但出願ノ際ハ
本人出頭スヘシ

第十七條 娼妓タラントスルモノト貸座敷主ト契約シタル條件ハ總テ其寫ヲ添へ出
願ノ際所轄警察署又ハ分署へ差出スヘシ但變更セントスルトキ亦同シ

第十八條 免許鑑札ヲ受ケタル時ハ徵毒檢査ヲ受ケタル後ニアラサレハ其業ヲ爲ス
ヲ許サス

第十九條 娼妓ハ平民ニシテ滿十六年以上ノモノニ限ルヘシ

第二十條 娼妓ハ貸坐敷營業ヲ許シタル家ノ外同居又ハ寄留スルヲ許サス

第二十一條 娼妓ヲ廢業セントスルモノハ同居ノ家主並ニ元締ノ連印及戶長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第二十二條 娼妓ハ其免許地内ニ於テ轉居セントスル時ハ其事由ヲ認メ父又ハ母(父母ナケレハ最近ノ親族親族ナレハ保証人二名ヲ要ス)及双方貸座敷主ノ連印并ニ身元引受人ノ連印ヲ得戶長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ鑑札ノ書換ヲ受ケヘシ他ノ免許地ニ移轉セントスルモノハ一旦廢業上更ニ免許ヲ受ケヘシ

第二十三條 娼妓ハ鑑札ノ水火盜難及毀損遺失等ニ罹リタル時ハ其事由ヲ認メ同居家主並ニ元締ノ連印ヲ得所轄警察署又ハ分署ニ届出テ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第二十四條 娼妓ハ貸座敷外ニ於テ稼業ハ勿論宿泊スルヲ許サス若シ事故アリテ他ニ宿泊スルトキハ同居家主及元締ノ連印ヲ得テ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受ケヘシ但宿泊ヲ要セスト雖モ免許地外ニ出ルトキハ元締ノ承認証ヲ得附添入ヲ要スヘシ

第二十五條 娼妓ハ稼業中鑑札ヲ携帶スヘシ

第二十六條 娼妓ハ見世ヲ張り又ハ通行人ニ對シ戯レヲ爲シ或ハ強テ屋内ニ引入若クハ狼ケ敷風俗ニテ屋外ヲ歩行スヘカラス

第二十七條 娼妓ハ客ノ舉動不審ナリト思慮スルトキハ速ニ貸座敷主ニ告知スヘシ
第二十八條 娼妓ハ貸座敷主ヨリ第十二條ノ取扱ヲ受ケタルトキハ速ニ警察官吏ニ申出ヘシ

第二十九條 娼妓檢査所ノ規則ヲ遵守スヘキハ勿論檢査定日外ト雖モ微毒ノ兆候アルトキハ臨時檢査ヲ受ケヘシ
第三十條 娼妓ハ本縣下ニ居住シ身元鑑ナル戶主ニシテ貸座敷營業者ニアラサルモ

ノ身元引受人ニ立ツヘシ但其引受人ニ於テ異動ヲ生シタルトキハ本人連署ノ上元締ノ連印及戶長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三章 元締

第三十一條 貸坐敷營業者ハ免許地毎ニ同業中正副元締貳名ヲ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ許クヘシ

第三十二條 元締ハ貸座敷並ニ娼妓ノ諸願届等ニ連印シ其他微毒檢査等一切不都合ナキ様注意スヘシ

第三十三條 元締ハ貸坐敷並ニ娼妓ニ關スル諸規則命令等ヲ營業者ニ通知シ且娼妓ノ揚代金ヲ記シ所轄警察署分署ヘ届出ヘシ但其金額ニ増減アルトキハ其都度届出ヘシ

第四章 罰例

第三十四條 本則第一條第五條第六條第七條第九條第十條第十二條第十四條第十六條第十七條但書第十八條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十條但書及第三十三條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ処シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ処ス
第一號書式

貸坐敷營業願

何府何國何郡何町何番地平民(寄留者)當時宮崎縣何郡何町何番戶寄留(同居)何ノ誰

私今般何ヤニ付貸坐敷營業仕度候間免許鑑札御下附被成下度此段奉願候也
何年何月生當何年何ヶ月

第一條 貸座敷並娼妓ハ平民ニ限り許可スヘキモノナルヲ以テ出頭ノ際篤ト其身分ヲ取糺スヘシ

第二條 娼妓稼ヲ爲スヘキモノハ多ク不幸壽命又ハ誘拐騙詐等ニ罹ルモノヲナル以テ本則第十六條但書ニ依リ本人出頭シタル時ハ篤ト其事情ヲ聞糺シ娼妓ノ業体ヲ烟論シテ正業ニ就カシムルコトニ注意スヘシ

第三條 本則第十七條ニ依リ差出ス契約證ニ不都合ノ廉アルトキハ之ヲ訂正セシムルカ又ハ願書ト共ニ返却スヘシ但變更ニ係ルトキ亦同シ

第四條 娼妓ノ身元引受ハ篤ト取調ノ上身元不慥ナルカ又ハ壹名ニシテ數名ノ引受ヲ兼ヌルモノハ變更セシムヘシ

第五條 貸座敷娼妓元締ハ免許地毎ニ公選スヘキ旨本則ニ規定アリト雖モ宮崎郡川原町北那珂郡松山町ハ一區域内ト見做シ取扱フヘシ

第六條 貸座敷營業則ニハ娼妓稼願ニ準シ家居ヲ記載セシムヘシ

第七條 貸座敷遊客人名簿ノ檢査ハ巡査交番所ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 二十三年五月廿九日訓令第六十七號ヲ以テ第八條第九條第十條削除ス

第十一條 警察署分署ニ於テハ貸座敷娼妓臺帳ヲ調製シ其住所氏名年齢家號娼名等ヲ記入シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

○本縣々令第八十三號 明治廿一年十二月六日
貸座敷並ニ娼妓ハ賦金トシテ左ノ通毎月五日限り新規開業ノモノハ翌日限り元締ニ於テ取糺メ戸長役場ニ上納スシ

娼妓ニシテ微毒ノ爲メ休業スルモノハ其月十五日以後ヲ以テ區別シ半月休業スルモノハ半額一ヶ月休業スルモノハ全額ヲ免除ス但怠納ノモノハ罰引揚クヘシ
一ヶ月一戸ニ付金三圓
貸座敷賦金

一ヶ月一人ニ付金貳圓

娼妓賦金

右宮崎郡中村町川原町北那珂郡松山町

一ヶ月一戸ニ付金貳圓五拾錢

一ヶ月一人ニ付金壹圓五拾錢

貸座敷賦金
娼妓賦金

右南那珂郡油津町東臼杵郡細嶋町岡富村

○本縣警訓第四號 二十二年一月二十二日(警察署)

今般貸座敷並娼妓取締規則改正相成候ニ付テハ第十七條ニ契約証差出スヘキ明文有

之然ルニ從來免許ノモノト雖モ本條ニ據リ更ニ契約証差出サセ候様取計アルヘシ

○本縣無號 二十二年四月廿四日(立公宮崎町)

廳下松山町川原町中村町娼妓微毒檢査ノ儀ハ自今其院ニ囑托ス別娼紙微毒檢査手續ニ依リ檢査スヘシ但檢査諸費トシテ一回金四圓六拾錢四厘支給ス

娼妓微毒檢査規則

第一條 娼妓微毒檢査ハ毎土曜日ヲ以テ定日トス其大祭日並休日ニ當ルキハ前後操替檢査スルコトアルヘシ但此場合ハ公立宮崎町院病院ヨリ貸座敷元締へ通知スヘシ

第二條 貸座敷元締ハ當日午前第八時出頭シ娼妓到着簿ヲ製シ到着順序ニ姓名ヲ登記シ及不參者ノ姓名ヲ取調檢査醫へ差出スヘシ

第三條 娼妓ハ當日午前第九時出頭シ貸座敷元締へ免許證札ヲ出シ若シ病氣ニテ出頭シ難キモノハ治療醫ノ診斷書ト免許證札ヲ添ヘ右時間マテニ差出ヘシ但檢査醫ハ時機ニ依リ該家ニ臨檢ミ査スルコトアルヘシ

第四條 檢査醫ハ貸座敷元締ノ調査シタル到着簿ニ依リ順次娼妓ヲ檢査シ病毒ナキモノハ元締ヲシテ免許證札ヲ返付シ有毒者ハ直ニ公立宮崎病院病室へ入室治療

ヲ受ケシメ鑑札ハ之ヲ病院ニ預置シ娼妓全快スルトキ之ヲ返付スヘシ
但患者入退院共公立宮崎病院所轄郡役所へ通知スヘシ
第五條 娼妓自ラ梅毒ニ感染シタルヲ覺知シタル時ハ貸座敷元締同行公立宮崎病院
ニ申出検査ヲ受ケヘシ
第六條 公立宮崎病院ハ娼妓梅毒検査ニ差問ヘサル別室ヲ備ヘ娼妓患者ハ常人ノ
病室ト區別ヲ爲スヘシ

宮崎縣警察規則上編終

明治二十四年十月廿九日出版

宮崎縣警察部

宮崎縣士族

印刷所 森

喜助

宮崎郡宮崎町大字上別
府四百二十一番戶寄留

